



1991. 11. 3. フェスティバルホール



第18回
関西六大学合唱演奏会

第18回 関西六大学合唱演奏会

1991年11月3日(日) フェスティバルホール

御挨拶

本日はお忙しい中、第18回関西六大学合唱演奏会にお越しいただきまして誠にありがとうございます。これもひとえに皆様方の変わらぬ御理解、御支援の賜物と連盟一同、心より深く感謝しております。

この度は合同演奏におきまして、男声合唱の名曲「富士山」を、作曲者の多田武彦先生に指揮していただくという幸運に恵まれました。繊細かつ力強い男声合唱の醍醐味を皆様方に感じていただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、この演奏会を開催するにあたり、御指導・御鞭撻下さいました方々に厚く御礼申し上げますと共に、今後ともより一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

関西六大学合唱連盟



立命館大学校歌

あかき血潮胸にみちて
若人真理の泉を汲みつ
仰げば比叡 千古のみどり
ふす目に清しや 鴨の流れの
かがみもたふとし 天の明命
見よ わが母校
立命 立命

OLD KWANSEI

Tune ev'ry heart and ev'ry voice,
Throw ev'ry care away;
Let all with one accord rejoice,
In praise of Old Kwansei,
In praise of Kwansei Gakuin,
In praise of Old Kwansei,
Her sons will give, while they shall live,
Banzai, Banzai, Kwansei!

大阪大学学生歌

生駒の嶺に 朝影さして
緑風さやけき 銀杏の木蔭
若きいのちは 力あふれて
歌ぞおほらに 望みはるけし
叡智の泉 掬みてつきせず
ほこりあり 真理の岡辺

DOSHISHA COLLEGE SONG

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim.
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine.
Thro' through the world we wander
far and wide,
Still in our hearts thy precepts
shall abide.

関西大学学歌

自然の秀麗 人の親和
たぐいなき 此の学園
我等立つ 人生の曙に
燦たる理想を 仰ぎつつ
学ぶは一途 純正の
若き心に 讃えなん
関西大学 関西大学
関西大学 長き歴史

甲南学園歌

みはるかす 茅渚の海
日にひかり 雨にけむり
わかうどの 夢をさそう
甲南 この学び舎
わがみちを すすめとの
遺訓あり まもり活かす
わかうどの 誓い固し
甲南 この学び舎

関西合唱連盟会長・音楽評論家

日下部吉彦

さすがは関西六大学だなあ、と感心することが今回もあります。その曲目のラインナップです。

マーラー、チャイコフスキー、荻久保和明、高嶋みどり、広瀬量平。この5人の作曲家は、いま、最もファッションブルといえる人たちでしょう。ブームを呼んでいるマーラー、昨年に生誕150年で、モーツァルトより、ひと足先に流行となったチャイコフスキー、そして日本の3人は、いま、全国の合唱団が、最も多くとりあげている作曲家ですね。それに加えてフィンランドの合唱作品が並んでいます、北欧もまた、いまの若者に大変人気のある地方です。秋を飾るにふさわしい曲目ですね。

さらに、とどめは多田武彦です。昔も今も変わらず、大学生に最も人気の高い作曲家。今秋の全日本合唱コンクールの課題曲にもとりあげられています。

その“多田節”を、作曲家自身の指揮で合同合唱というのですから、これはまさに“きわめつけ”といえるでしょう。多田先生は、私とほぼ同じ時期に、京大男声合唱団の指揮をしていた人で、よきライバルでもありました。大学グリーの空気をすべて身につけている作曲家です。その先生の指揮により、きっと音楽以上のものを、学びとることが出来るでしょう。

盛会を祈っています。

多田武彦のこと

合唱指揮者

松浦周吉

戦後数年を経て合唱界は一つのピークを迎えた。昭和25年から27年のことである。当時は大学のグリークラブが合唱界をリードしていた。中でも京大、同志社、関学は一頭地を抜いていた。多田武彦(京大)、日下部吉彦(同志社)、松浦周吉(関学)、は指揮者として三羽鳥と言われていたことを思い出す。後に多田は作曲家として、日下部は音楽評論家として大成した。

多田は今日まで約450、そのほとんどを組曲としたから、その数でみるとほぼ90曲となるであろうか。「柳河風俗詩」や、「雪明りの路」、それに今回の「富士山」などは男声合唱経験者はみんな一度はハモってきた筈である。今日男声合唱団のリサイタルのプログラムに多田の曲が見当らないことは珍しい。何故そんなに愛唱されるのか。一つには彼の師、清水脩の「詩の持っている音楽的な力学をぶち壊さないように」という教えを自分のものにしてきたこと、加うるにその親しみやすいメロディーと、京大男声在部中に会得した男声合唱だけがもつ独特の魅力的ハーモニーを駆使してきたからであろう。

40年前の京大時代、彼は常に私の指揮する関学グリーの演奏を聴き、徹底的な分析をしていた。そして「松浦のノウハウを盗んだ。(だが松浦はそれをノウハウだとは思っていない)それがなかったら今日の多田はない」などと言ってくるのはまことに嬉しい。

学生時代「カマキリ」と言われた彼の指揮を見るのは久しぶりである。ご成功を祈る。(敬称略)

兵庫県合唱連盟会長

平田 勝

「四つの仕事歌」の演奏からもう1年が経ちました。「私達が忘れかけている土の香り、働く者の逞しさ…」(昨年のパンプより)といったものを現代っ子の諸君がどこまで表現してくれるだろうかと心配しながらの選曲だったのですが、その心配も何のその、勇壮な太鼓のリズムに乗って大ホールに響きわたった大合唱の感動は今も忘れることができません。それぞれ独自のカラーを持つ合唱団が、合同演奏であたかも一つの合唱団のようにまとまりの良い演奏を聴かせるのはそれほど容易な事ではありませんが、少なくとも「四つの仕事歌」の場合は、みなさんの努力ですべてがうまくいったように思います。

今年の演奏会では、無伴奏男声合唱曲の中でも名曲中の名曲といわれる多田武彦の「富士山」が作曲者の指揮によって歌われると伺いました。ここで詳しく論じる余裕はありませんが、私は真に日本的な合唱曲の創造を強く願う者の一人として、この曲の作品的価値を高く評価します。「四つの仕事歌」のように純粋な日本音階の旋律に和声付けするのも重要な一つの方法ですが、この場合どうしても音の使用に制約が伴い和音の種類も限られます。そこで表現力拡大のためには日本音階に固執しないで日本的なものを創作することが求められ、その代表的な作品として「富士山」をあげることに異論をはさむ人はないでしょう。そうした意味でもこのたびの「富士山」の合同演奏は重要な意義を持ち、その成功を願わずにはおられません。

東西四大学合唱連盟

第18回関西六大学合唱演奏会の御開催を心からお祝い申し上げます。

18年目をむかえ、既に関西の秋の風物詩となった六連であります。今年は多田武彦先生をお迎えしての「富士山」を合同演奏するとの事、我々も自然と胸が高鳴ります。我々は、関西六大学合唱連盟であると同時に東西四大学合唱連盟でもある同志社、関学を通じて、間接的ではありますがお互い刺激をうけつづけてきました。ただ、東京という距離的な問題により、多くの者が聴きに行くことが出来ないのが大変残念です。

四連が諸先生方に棒を振って戴くのに対し、関西六連は合同ステージ以外は学生によって演奏され、それだけ各団の個性の豊かさが露骨にでていて、はるばる東京から聴きにいくのが毎年の楽しみです。

どうか今宵も東京まで噂の流れてくる六連運動会の時のような絶倫振りを遺憾なく発揮され、関西の合唱ファンを歓喜の渦に巻き込んでくれるような熱いメッセージを聴かせて下さい。

最後になりましたが、本日の演奏会の御成功と共に、六連メンバーの交流が増々親密になられますことを心よりお祈り申し上げます。

東京六大学合唱連盟

関西六大学合唱連盟の皆様、第18回関西六大学合唱演奏会が開催されますことを、東京六大学合唱連盟一同、心よりお慶び申し上げます。

めまぐるしいばかりに急激な変化を続ける現代社会におきまして、「男声合唱を通じて各団相互の親睦をはかると共に、関西合唱界の発展に寄与する事。」という連盟結成以来の目的を決して忘れることなく、今日まで、受け継がれてきた貴連盟の姿勢には、感嘆の意を禁じ得ません。それぞれ違った個性を持つ6つの合唱団が、これ程までに大規模な演奏会を開催し続けるためには、数多くの困難が伴い、数多くの努力を必要としたことと存じ上げます。しかし、決して、屈することなく、今日まで意義ある伝統を築いてこられ、日本のアマチュア合唱界をリードする存在として、さらに発展していこうとする原動力は、偉大なる目的意識によるものかとお察し致します。

街の景色も、まさに秋色に彩られるこの季節に、今宵、皆様の合唱に対する情熱が開花し、日頃の猛練習の成果が遺憾なく発揮され、円熟した、心震える名演奏の数々が披露されますことを期待して止みません。

最後になりましたが、本日の演奏会の御成功と、貴連盟の更なる御発展を心よりお祈り申し上げ、私達の御挨拶とさせていただきます。

関西学生混声合唱連盟

本日、関西六大学合唱連盟の皆様が第18回定期演奏会を開催されますことを関西学生混声合唱連盟一同、心よりお慶び申し上げます。

様々な個性を持つ合唱団が一同に会し、互いに協力し合って一つの演奏会を開くということは、本当に素晴らしいことであると同時に、各団をまとめることは非常に難しいことであると思います。その困難を乗り越え、18回という伝統を築いて来られた皆様方の積極的かつ、常により高い芸術性、より美しいハーモニーを創造しようとする貴連盟の真摯な姿勢には、常ながら敬服の念を抱くと同時に、私共関混連も見習うべき点が数多くあると感じております。合唱の領域の違いはございますが、幅広い交流を持ち、互いに切磋琢磨することができれば幸いです。

さて、今宵の演奏会ですが、合同演奏に多田武彦先生をお招きして、男声合唱組曲「富士山」を演奏されると聞き、連盟員一同大いに期待し楽しみにしています。

今日は皆様の織りなす妙なるハーモニーが会場に響きわたり、満場のお客様の心を魅了されることと確信しております。最後になりましたが、今回の演奏会の御成功と、貴連盟のなお一層の御発展と御活躍を心よりお祈り申し上げます。

エール交歓

立命館大学メンネルコール
 関西学院グリークラブ
 大阪大学男声合唱団
 同志社グリークラブ
 関西大学グリークラブ
 甲南大学グリークラブ



立命館大学メンネルコール

男声合唱のための組曲 「ゆうべ、海を見た」

- I. PRELUDE
- II. 八月 (あきらめの海)
- III. 九月 (朽ちた小舟)
- IV. 十月 (哭く)
- V. そしてララバイ

作詩 落合 恵子
 作曲 萩久保和明
 指揮 高松 浩
 ピアノ 垣内みどり



関西学院グリークラブ
 「さすらう若人の歌」

- I. 君がとつぐ日
- II. 露しげき朝の野辺に
- III. 灼熱せる短刀もて
- IV. 君が青きひとみ

作詞・作曲 グスタフ・マーラー
 編曲 福永陽一郎
 指揮 土井 賢志
 ピアノ 島田 稔也



大阪大学男声合唱団

「チャイコフスキー歌曲集」

- I. Warum?
- II. Inmitten des Balles
- III. Nicht Worte, Geliebter
- IV. Nur wer die Sehnsucht Kennt
- V. Ständchen des Don Juan

作曲 チャイコフスキー
 編曲 福永陽一郎
 指揮 根津 昌彦
 ピアノ 藤澤 篤子

— Intermission —

同志社グリークラブ

男声合唱組曲 「青いメッセージ」

- I. 月蝕と花火序詩
- II. 青い花
- III. 婆さん蛙ミミミの挨拶
- IV. 秋の夜の会話
- V. サリム自伝
- VI. ごびらっふの独白

作詩 草野 心平
 作曲 高嶋みどり
 指揮 永島 健一
 ピアノ 長田 育忠



関西大学グリークラブ

男声合唱組曲 「五つのラメント」 ～草野心平の詩による～

- I. 十字架
- II. さようなら一万年
- III. 天のベンチ
- IV. オーボエの雲
- V. Volga

作曲 広瀬 量平
 指揮 澤 文雄



甲南大学グリークラブ

Finnish Winter Chorale Works

- I. ALTA TRINITA BEATA
- II. RAMUS VIRENS OLIVARUM
- III. HOSIANNA
- IV. NÄT DET LIDER MOT JUL
- V. TALVINEN TIBER
- VI. JOULUYÖNÄ

指揮 近田 勇人

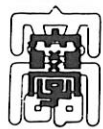


合同演奏

男声合唱組曲 「富士山」

- I. 作品第壹
- II. 作品第肆
- III. 作品第拾陸
- IV. 作品第拾捌
- V. 作品第貳拾壹

作詩 草野 心平
 作曲・指揮 多田 武彦



男声合唱のための組曲

ゆうべ、
海を見た

その多くが現代的で都会の雰囲気をもつ落合恵子の作品は、強い女・自由な女を実に生き生きと表現している。彼女は、その中で、現代社会を生き、男と対等に主体的に生きようとする新しい女たちの肖像を追求し続けている。

また落合は、機会ある度に『パパラギ』という本の紹介を通して、物質的豊かさだけを追い求めようとする現代の文明社会への疑問を呈示している。その本の内容は、20世紀初頭に欧州を旅行し、はじめて文明と呼ばれるものに触れた南の島の酋長ツイアビの感想をまとめたものである。この中でツイアビは、機械文明や子供たちの教育に対して強い批判をしている。そして「文明社会に生きる彼らの人生の最大の目的は、誰よりも早く先頭に立つことにあるらしい。彼らは誰もが投げられた石のように人生を走る。」と語っている。この本について落合は、文明社会の園車となってしまっている現代人が生きていくために必要な何かが潜んでいるような気がする、と述べている。

組曲『ゆうべ、海を見た。』の詩においてもこのような彼女の感性が表われている。そこには日常の喧噪から切り離された場所、時間に追われることのない空間としての海があり、文明社会の匂いは全くない。海には時の流れを感じさせない、不思議な力が存在している。疲れた人間はここへ辿り着き、自分自身を見つめ直し、明日へと続く道を探し出す。

失恋し心傷ついたひとりの女性が、その傷を癒そうと、いつもの海へ帰ってくる。疲れたカモメのように……このシーンから組曲は始まる。そして彼女の眼には夏の終わりの海——賑わいの去った独特の寂しさを感じさせる海——が映る。美しいメロディが感傷的なムードを一層強くさせる。九月、秋色が一段と濃くなり、不気味で幻想的な情景が彼女を包み込む。十月、嵐が吹き荒れ、海は大きく哭く。彼女の心は閉ざされたまま、小さく哭く……。やがて海は落ち着いた表情を取り戻し、次第に彼女の傷を癒していく。そして、彼女の新しい人生が始まろうとしている……。

この組曲は5曲で構成されており、そのうち最初の曲と最後の曲が無伴奏で、残り3曲にはピアノ伴奏がつけられている。終曲では「忘れかけた あのメロディ いま 思い出して……」というフレーズの後、再び1・2曲のメロディラインが浮かび上がってくる。作曲家、荻久保和明の意図としてロマンティックで美しいメロディが全体的に使われ、私達の心に強くしみついて離れない。

男声合唱曲としては珍しく現代的な詩が用いられ、音楽もポップス的な感覚で創られている。途中難解なリズムの箇所もあるが、技術だけに捕われることなく、ダイナミックな演奏が出来れば幸いである。

指揮者 高松 浩

なんてことはない奴である。マッチ棒のような身体にカルシウムの足りない性格（短気）で、Bassのくせに、妙に高い笑い声で、これといった女性もない。そんな彼であるが、ある夜、なにを血迷ったのか（酔っ払っていたと言う話もある）メンネルのT2（ターミネーター）に闘いをいどんだ。が結果は、ご想像どおりT2の圧勝、T1の惨敗である。（本当に彼は、酒グセが悪い。）この後、T1とT2は、友好関係を結び、現在メンネルは、平和である。



くだらない話をしてしまったが、この高松君、タクトを持つとメンネルがアホなのをいい事に練習では、団員をいじめまくっている。今宵はその成果をお見せする事ができるでしょう。……彼に、Luckのあらんことを……アーメン……。

※文中T1…高松 T2…富吉

ピアノ伴奏 垣内 みどり

京都市立堀川高校音楽科を経て愛知県立芸術大学音楽学部ピアノ科卒業。同大学院修了。在学中H. ビュイグ・ロジェ氏の公開レッスンを受講。

1985、86年サロン・コンサート、88年モーツァルト協会例会に出演。90年リサイタル開催。コンチェルトは84年モーツァルト室内管弦楽団、89年関西フィルと協演。その他、声楽、器楽、合唱伴奏等幅広く活動している。

竹内美知子、山崎孝、小島準子、故小津恒子、谷康子の諸氏に師事。

現在、滋賀県立短期大学講師。



I. PRELUDE

いつも帰って来てしまうのだ
疲れたカモメのように……
つばさを休めに 海よ。

II. 八月（あきらめの海）

八月の海は
あきらめの匂い

後手にドアを閉めて
今、出ていった
昨日までの恋人を
貝のように
ちんまりと
おし黙ったまま
見送るように

去りゆく夏を
見送る 海

八月の海は
あきらめの色

III. 九月（朽ちた小舟）

朽ちて
砂浜に
棄てられた小舟
そのへさき

黒い蝶が
ひら ひら ひら ひら
老いた小舟を
葬う
喪服の蝶よ

九月の海は
亜麻色の夢のなか……。

IV. 十月（哭く）

空が哭く

風が哭く
海が哭く

十月・嵐の夜

私も哭く

海は 大きく 哭く
私は 小さく 哭く

V. そしてララバイ

どうして
目が離せましよう
一秒ごとに
姿をかえる
あなた だから……。

だからわたしは
こうして
日がな一日
砂の上

そしてララバイ
忘れかけた
あのメロディ
いま
思い出して……。

さすらう 若人の歌

マーラー自作の詩による4曲の連作歌曲集「さすらう若人の歌」は、マーラー創作初期の秀作であり、カッセル歌劇場の補助指揮者時代の1883~85年にかけて書かれている。この曲集は当初、バス独唱およびピアノ伴奏という形をとったが、1896年3月16日のベルリンに於ける初演に先立って、管弦楽伴奏に編曲され、翌年出版された。ここに、オーケストラが詩以前に、あるいは詩そのものの以上に詩の情景を語るといふ彼のスタイルが確立されたのである。

詩の内容は、恋人が自分を裏切って他の男のもとへ嫁いでゆき、そして自分は傷心のままに何処ともなく、さすらいの旅に出るという、若々しい、素朴でロマンチックなもので、シューベルトの「冬の旅」や、彼が後に多くの歌曲のテキストをとった「子どもの不思議な角笛」などと共通した感情がそこにはある。1885年1月1日、彼は友人のフリッツ・レーアに手紙を送った。「僕は歌曲集を一つ書いた。そのいずれもが彼女に捧げられている。彼女は僕の歌のことを何も知らない。しかしこれらの歌は、彼女の知っていることだけを歌っている。」この「彼女」とは、カッセル歌劇場の女流歌手ヨハンナ・リヒターのことであり、就任して2年足らずでカッセルを去ることで終わってしまった彼女との恋愛が、この一連の歌曲集に深く影響しているようである。

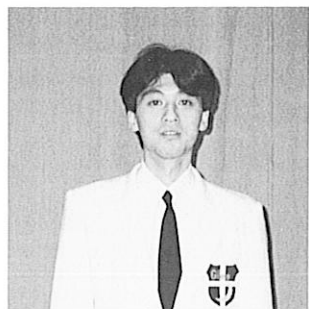
曲は悲しみの歌に始まり、2曲目で自然の美しさを称え、明るさを帯びるが、やがて自分への寂しい懐疑にもどる。3曲目で苦しみが一気に激情となって吹き出し、死の予感とともに消え、終曲では葬送行進曲のリズムが現れ、苦悩が拭い切れないながらも、最後には東洋的な諦念と倒錯的な夢心地のなかで終わる。また、音楽的な特徴として、伴奏の根本にある管弦楽の構想、民謡風で素朴な全音階的旋律、葬送行進曲の使用、発展的調性（ある楽曲の出だしの調と終わりの調が異なる）、不規則なリズム型（2拍子型と3拍子型の交替など）、4度の音程の独特の使い方など、後のマーラーの交響曲にみられる要素を含んでおり、また、第一交響曲の第一楽章に第二曲の主題が、そして第三楽章に第四曲の終結部分の旋律がそのまま取り入れられているのを見ても、この歌曲集がマーラーの音楽の出発点になったことが理解されるのである。しかし、この時23才のマーラーの音楽は、以後のどの作品よりも、みずみずしい若さで輝いているのである。我々は、自らの若々しい思いをこの曲にぶつけることによって、真の輝きを見出し、表現したいと思います。

指揮者 土井 賢 志

1969年4月15日、兵庫県宝塚市生まれ。関西学院中学部、関西学院高等部を経て関西学院大学法学部に入學。高等部時代よりグリークラブに在籍していた彼は、大学入學とともにグリークラブに入部。現在、指揮法を北村協一、広瀬康夫氏に師事。その稀代の音楽的センスを持つ彼は、第59回関西学院グリークラブリサイタルにおいて「U Boj」を振り、華々しいデビューを飾った。

関学グリーの誇るテノールでもある美声に加え、一見女性的で優しげなルックスを持ち、穏健な性格、オペラ鑑賞を趣味とする彼は女性ファンも多く、その数は部員の中では群を抜いている。

その「ショートケーキ」のように甘いルックスと性格から「D賢（でいけん）」と部員に呼ばれ、親しまれている彼は、愛車カーリーナE Dに乗り、今日も「清荒神の風」となった。どいけんじ22才。女性には甘いが、音楽には一応厳しい。



ピアノ伴奏 島 田 稔 也

1964年明石に生まれる。7才よりピアノを始める。1988年、関西学院大学社会学部卒業。在学中、関西学院グリークラブのトップテノールのパートリーダーと学生ピアニストを兼任する。ピアノを（故）植田信朗、武谷安子、田淵幸三、ヴァレー優美子諸氏に師事。また伴奏法を久邇之宜氏に師事。繊細で、かつ、力強い天性の音楽センスを生かしたピアノ伴奏には定評がある。

現在、関西学院グリークラブを始め、職場、一般合唱団等の伴奏者として活躍中。



I. Wenn mein Schatz Hochzeit macht 君がとつぐ日

Wenn mein Schatz Hochzeit macht,
Fröhliche Hochzeit macht,
Hab' ich meinen traurigen Tag!
Geh' ich in mein Kämmerlein,
Dunkles Kämmerlein,
Weine, wein' um meinen Schatz!

私の大切な人がとついでゆく日、
幸せな婚礼の日こそ
私にとっては悲しみの日だ。
私は自分の小さな部屋に
ほの暗い小部屋に入って
いとしい人のことを思ひ泣いた。
愛する人のことを思ひ泣いた。

Blümelein blau! Blümelein blau!
Verborre nicht! Verborre nicht!
Vöglein süß! Vöglein süß!
Du singst auf grüner Heide!
Ach! wie ist die Welt so schön!
Ziküth! Ziküth!

青い花よ、青い花、
しおれるな、枯れるな。
かわいい小鳥よ、
お前は緑の野原で歌っている。
「ああ、この世はなんと美しいのだ、
ピイチク、パーチク」と。

Singet nicht! Blühet nich
Lenz ist ja vorbei!
Alles Singen ist nuu aus!
Des Abends, wenn ich schlafen geh'
Denh' ich an mein Leide!

歌わないでくれ、咲かないでくれ。
春はもうすぎ去ったのだ。
すべての歌声はいまやとまった。
夕方に、眠りにつこうとするとき、
私は自分の苦しみを
自分の苦しみを思うのだ。

II. Ging heut Morgen über's Feld 露しげ朝の野辺に

Ging heut Morgen über's Feld,
Tau noch auf den Gräsern hing,
Sprach zu mir der lust'ge Fink:
"Ei, du! Gelt?
Guten Morgen! Ei, Gelt? Du!
Wird's nicht eine schöne Welt?
Schöne Welt? Zink! schön und flink!
Wie mir doch die Welt gefällt!"

この朝野辺をゆくと、
まだ草の葉には露がおりていて、
鳥は陽気に私に話しかけてきた。
「ねえ君、おはよう
ねえ君、
すばらしい日になりそうですね。
すばらしい日だね。
この世はなんと素敵なんだろう。」

Auch die Glockenblum' am Feld
Hat mir lustig, guter Ding,
Mit den Glöckchen, klinge, kling,
Ihren Morgengruss geschellt:
"Wird's nicht eine schöne Welt?"

Kling, kling, schönes Ding!
Wie mir doch die Welt gefällt!" Hei-ah!

野辺の釣鐘草の花も
楽しく気のいい感じで
鈴をきんこんと鳴らしながら、
朝の挨拶を私に伝えてきた。
「すばらしい日になりそうですね。
きんこん、すばらしいことだ。
この世はなんと素敵なんだろう。
まあ本当に。」

Und da fling im Sonnenschein
Gleich die Welt zu fuukeln an:
Alles, Alles, Ton und Farbe gewann!
Im Sonnenschein!
Blum' und vogel, gross und klein!
"Guten Tag! Ist's nicht eine schöne Welt?
Ei, du! Gelt? Ei, du! Gelt?
Schöne Welt?"

そして、陽の光のなかで、
世の中はまさにきらめきはじめた。
どれもこれも、陽の光をうけて
音をだし、色づいてきた。
花も鳥も、大きいものも小さいものも。
「こんにちは、こんにちは、
すばらしい日になりそうですね。
ねえ君、すばらしい日にね。」

Nun fängt auch mein Glück wohl an?!
Nein! Das ich mein' mir nimmer blühen
kann!

そこでまた私の幸福もはじまるのだろうか?
いやそうじゃない。決して私には
花が開くことはありえないのだ。

III. Ich hab' ein glühend Messer 灼熱せる短刀もて

Ich hab' ein glühend Messer,
Ein Messer in meiner Brust,
O weh! O weh! Dass schneid't so tief
In jede Freud' und jede Lust,
So tief! So tief!
Es schneid't so weh und tief!

私は胸のなかに1本のナイフを、
灼熱したナイフをもっている。
おお、なんと悲しいことだろうノ
このナイフは、すべての喜びと
すべての楽しみのなかに深く深く
突きささっているのだ。
悲しく深くささっている。

Ach, was ist das für ein böser Gast!
Nimmer hält er Ruh, nimmer hält er Rast!
Nicht bei Tag, nicht bei Nacht, wenn ich
Schliefe!
O weh! O weh! O weh!

ああ、なんとという憎らしい客だろう。
それは決して休むことがないし、
決して憩うこともない。
ほもそうだし、
私が眠っている夜もそうだ。
おお、なんと悲しいことだろうノ

Wenn ich in den Himmel seh'
Seh' ich zwei blaue Augen steh'n!

O weh! O weh!
Wenn ich im gelben Felde geh'
Seh' ich von fern das blonde Haar
Im Winde weh'n! O weh! O weh!
Wenn ich aus dem Traum affahr'
Und höre klingen ihr silbern Lachen,
O weh! O weh!
Ich wollt' ich läg' auf der schwarzen Bahr!
Könnt' nimmer, die Augen aufmachen!

私が大空に目をやると、
二つの青い目があるのがみられる。
おお、なんと悲しいことだろうノ
黄色味をおびた野原をゆけば、
遠くのほうにブロンドの髪が
風に吹かれているのがみられる。
私が夢からさめると、
私は彼女の銀のような笑い声のひびくのをきく。
おお、なんと悲しいことだろうノ
私は黒い棺に横たわって、
二度と目を開けないでいたいと思うのだ。

IV. Die zwei blauen Augen 君が青きひとみ

Die zwei blauen Augen von meinen Schatz,
Die haben mich in die weite Welt Geschickt.
Da musst' ich Abschied nehmen vom
allerliebsten Platz!
O Augen blau, warum habt ihr mich
angeblickt?
Nun hab' ich ewig Leid und Grämen!

私の恋人の青い二つのひとみ。
それが私を広い世の中に追いやった。
そこで私は、こよなく愛する土地から
去ってゆかねばならなくなった。
おお、青いひとみよ、なぜ私をみつめたのだ。
いまや私は永遠の悩みと傷心を抱えている。

Ich bin ausgegangen in stiller Nacht,
In stiller Nacht wohl über die dunkle
Heide;
Hat mir niemand ade gesagt.
Ade! Ade! Ade!
Mein Gesell' war Lieb' und Leide!

私は静かな夜に
暗い荒野をこえて、出発した。
誰も私にさようならと声をかけない。
私の道づれは、愛と悩みだった。

Auf der Strasse steht ein Lindenbaum,
Da hab' ich zum ersten Mal im Schlaf
geruht!
Unter dem Lindenbaum!
Der hat seine Blüten über mich geschneit,
Da wusst' ich nicht, wie das Leben tut,
War alles, alles wieder gut!
Ach, alles wieder gut!
Alles! alles Lieb' und Leid,
Und Welt und Traum!

道ばたに1本の菩提樹があり、
そして私ははじめて眠りについた。
菩提樹の下で。
この樹は、花びらを私に雪のようにふりかけた。
ここで私は世間がしたことを忘れてしまった。
なにもかもすべてがまたよくなった。
ああ、すべてが好調だ。愛も悩みも、世間も夢も、
みなよい方向に向っていた。



チャイコフスキー 歌曲集

——創造的芸術家は二重の生活を営みます。一つは人間としての生活であり、もう一つは芸術家としての生活です。そして、この二つは必ずしも一致しません。——

創造者として至高の境地に到達した芸術家が、一面やはり一個の人間であり、実生活上の心理がその創造の高みからは程遠いところにあるという良き例を、我々はチャイコフスキーのなかに見る。恍惚たるロマンティストであり、偉大なる感情の処理者であった彼が、一方では神経症患者のプチ・ブルジョワにすぎず、自尊心が強く、そのくせ小心者で、酒飲みで、怠け者で、スキャンダルの多い男であったが、また誰知らぬ者のない寛大さをも持ち合わせた人間だった。ごく当たり前の小人間でありながら、絶えず靈感の訪れを受ける芸術家でもあったのである。そしてその靈感との交渉は、彼にとってはいとまたやすいことであった。

チャイコフスキーの生涯にわたって、約百曲のロマンス（ロシア語で《リート》の意）が見出される。最初の歌曲集「6つの歌・作品6」は1869年の作であり、その中には《何故？（ハイネ詩、メイ訳）》、《語るな我が友よ（ハルトマン詩、プレシチュエフ訳）》、《ただ憧れを知る者のみが（ゲーテ詩、メイ訳）》が含まれる。また1878年に作られた「6つの歌・作品38」には《ドン・ファンのセレナーデ（トルストイ詩）》、《さわがしい舞踏会の中で（トルストイ詩）》がある。

これらをはじめ、彼の歌曲の中には、叙事的な語りのことばから自然にでてきたメロディと、ロシアの田舎で素朴な民衆たちが歌っていた民謡に深く根ざしたメロディと、西欧風に美しく洗練されたメロディと、その三つが鮮かに生かされ、使い分けられている。しかし、彼は歌曲という内心の打ち明けとなる形式のなかでは自由に呼吸しかねるという感じを抱きつつ作曲を行っていた。このジャンルの運命に期待をかける気持ちは薄かったのである。でも、それだからこそチャイコフスキーをじかに感じさせる独特の美しさが、そこにはあるように思われる。

指揮者 根津昌彦

根津昌彦、ネッシー、ねづPなどで親しまれている彼は、今年度、実は3回生にして正指揮者を務めています。昨年度の定期演奏会での「レ・ミゼラブル」から後も一段と成長を続け、一回りも二回りも大きくなり（事実）押しも押されぬ指揮者となりました。彼の好きな食べ物は「プリン」、そう聞くと「まあ♡」と思われるかもしれませんが、一方で、食べてみたい昆虫というところ、と「せみ」と真剣に答えるのです。こういう面からも、彼の超人的な感覚がお分かり頂けるでしょう。

今宵、そんな彼が、「チャイコフスキー歌曲集」で六連に臨みます。女性に対してとてつもなく気の多い彼が、このようなゲーテの詩等を表現できるのも、彼の音楽に対する一途さによるものではないでしょうか。今後とも彼の活躍にご期待下さい。



ピアノ伴奏 藤澤篤子

相愛女子大学（現・相愛大学）音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。武田邦夫、井口基成、志賀宗三郎の諸氏に師事。大学在学中よりピアニストとして多数の演奏会に出演。現在、合唱団京都エコー、住友金属混声合唱団、女声合唱団セシリア等、関西において伴奏者として活躍中。

藤澤先生には、毎年Joint Concert、定期演奏会でピアノ伴奏として御指導頂いており、先生のか細く、繊細な指先から奏でられる美しい旋律と和音に団員一同が絶大な信頼を寄せています。そして今年は、7月のJoint Concertに続き今宵の六連でも、我が大阪男声の単独ステージを伴奏して頂くことになり、団員一同、新しい気持ちで六連の練習に邁進してきました。

今宵は、我が大阪男声が、藤澤先生の美しいピアノによって、愛を歌い上げる110人の貴公子となれたら幸いです。



I. 何故？（ハイネ 詩）

何故 バラはこんなに青ざめているのか
やさしい恋人よ 答えてくれないか
何故 スミレは緑の草の下にいるのか
まるで涙で濡れた瞳のように

何故 こんなにも悲しげに響くのか
空へと 小鳥の歌は
何故 木々の間で風が立てる音は
嘆きの声のようなのか

何故 太陽は冬のように冷たく
不機嫌に森を照らすのか
何故 私が見ているこの大地は
こんなにも陰鬱で荒れはてているのか

そして何故 私自身こんなに悲しく
何故 すべてが涙を通して見えるのか
何故 おお言ってくれ 恋人よ
おまえは何故 私から去っていったのか

II. さわがしい舞踏会の中で（トルストイ 詩）

舞踏会の騒がしさの中で ふと
あなたを見た
でも あなたの愛しい物思わしげな顔は
神秘に覆われていた

その瞳はたくさんの悲しみを
見るようで
でも その声は銀鈴のように美しく響いた
波のゆらめきのように、遠いシャルマイのように ※注

あなたの物思わしげな様子
あなたの細い腰
しずくとなって消える笑い声
その時から ぼくの心に響いている

孤独な夜の恐怖の中で
あなたの魅惑がぼくをおおう
ぼくは あなたの麗わしげな目を見て
朗らかな言葉をきく

そして夢のようなたくさんの至福に抱かれ
ぼくは 少しだけ苦しみから救われる
あなたを愛しているのか——不安になる
でもぼくは思う……あなたを愛している、と

※注）シャルマイ＝木管楽器

III. 語るな我が友よ（ハルトマン 詩）

語るな 恋人よ ため息をたてるな
僕ら二人 黙っていよう
黙って孤独に墓石の上に
垂れている悲しげな柳のように

墓を見ると私の心は沈んでゆくように
病に冒された君はとても幸福な日々から
墓の中の永遠の眠りへおちてしまった

語るな 恋人よ ため息をたてるな
僕ら二人 ゆれ動こう
ゆれ動いて孤独に墓石の上に
垂れている悲しげな柳のように

IV. ただ憧れを知る者のみが（ゲーテ 詩）

あこがれを知る人にしか私の悩みはわかりません
ただひとり すべてのよろこびからはなれ
私はかなたの空をながめています
ああ私を愛し、私を知っている人は遠くにいるのです

あこがれを知る人にしか私の悩みはわかりません
ただひとり すべてのよろこびからはなれ
目まいがします。はらわたが燃えます。
あこがれを知る人にしか私の悩みはわかりません

V. ドン・ファンのセレナーデ（トルストイ 詩）

遠いアブリラハの灯は消えた、黄金の土地
ギターの響きの呼び声に
出ておいで、私のいとしい人よ
あなた以外の人をほめたたえる奴がいるならば、
私はそいつと戦い、そして、そして
そして、剣を突きさしてやる

月の光に染まる地平線
おお 出ておいで、ニセータを急いでバルコニーへ

セビリヤからグラナダまで夜の薄闇の中
セレナーデは響き、剣のふれ合う音がする
この多くの血、多くの歌は
すばらしい女性のために流される
しかし、私こそすべてのすばらしい女性たちにすべて
すべて、すべての私の歌も血潮も財も捧げよう

月の光に染まる地平線
おお、出ておいで、ニセータよ急いでバルコニーへ

男声合唱組曲

青い
メッセージ

第一曲は序曲となっています。第二曲は子供の唐突な死との遭遇が、第三曲では老婆の大往生が描かれています。第四曲はア・カペラで、秋の夜の、名もない蛙たちの寂しい語り合いです。第五曲は、戦争という理不尽な行為にまきこまれて死んだ主人公が話者になっています。そして第六曲では、生誕への喜びに満ちた「春殖」に導入され、ごびらっふによる“独白”が始まります。軽快なリズムにのせて、蛙語と日本語訳による独自の幸福論が展開され、この組曲のテーマともいえる終結部へと至ります。

いい げるせいた。
 でるけ ぶりむ かににん りんり。
 おりちぐらん う ぐうて たんたける。
 びる さりを とうかんてりを。
 いい びりやん げるせいた。
 ばらあら ばらあ。

(日本語訳)

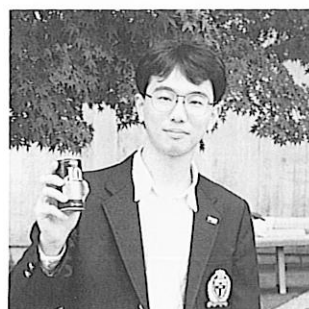
ああ虹が。
おれの孤独に虹がみえる。
おれの単純な脳の組織は。
言はば即ち天である。
美しい虹だ。
ばらあら ばらあ。

これらの言葉には、明確に自己存在の肯定が示されており、それは、死すら克服した力強いものになっています。そして「ばらあら ばらあ」という壮大な叫びは、まるで全宇宙へ向かっての自己宣言であるかのように響きわたり、この組曲は完結します。

「青いメッセージ」は、合唱曲の中でもかなりの難曲の部類に入ります。それを取って学生指揮者のステージとして取りあげたわけですが、単なる意欲的挑戦に終わらせることなく、一つの音楽を表現しようと、日々練習に取り組んできました。本日は、心よく賛同して伴奏をお引き受け下さった長田先生のピアノのもと、学生らしく、誠実な態度で演奏にのぞみたいと思います。

指揮者 永島健一

昭和43年埼玉生まれ。高校時代より合唱に親しみ、昭和63年同志社大学文学部入學と同時にグリーククラブに入部する。今年2月のフェアウェルコンサートで「在りし日の歌」を指揮し、第60代学生指揮者として鮮烈なデビューを飾る。東西四連、夏の金沢演奏旅行と、現在好評の同志社グリーを支える大黒柱である。(信頼してるっすよ。by 部員一同)



氏の音楽に対する情熱は他の
追従を許さず、その神祕は限り
なく厳しい。その真摯な眼差し
に、部員は知らぬ間にベースに
はまってしまっている。しかし、
クラブを離れた私生活では非常
にやさしい。その人柄も魅力で
永島さんが笑うとホッとする。
(永島さんの麦茶、おいしか
ったよ)

今宵、小林研一郎先生も絶賛の
その指揮ぶりで、きっと聴衆の
皆さんと感動を共有できること
でしょう。どうぞ御期待。

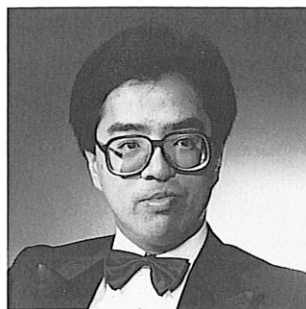
ピアノ伴奏 長 田 育 忠

同志社大学法学部卒業

器楽・独唱・合唱等の伴奏者として、また宗教音楽のオルガニストとして数々の演奏会に出演。86年2月ボストン交響楽団京都公演（マーラー：交響曲第3番）の際、小澤征爾氏指揮による合唱練習に伴奏者として参加。86年6月、90年1月、91年1月にジョイントリサイタルを開催。

ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一、山崎孝、N. ジョルジ、H. ピュイグ＝ロジェの諸氏に師事。和声楽を島田和昭氏に師事。

現在は伴奏者として幅広く活躍する一方、合唱のための編曲も数多く手がけている。(社)全日本ピアノ指導者協会正会員。



I 月蝕と花火序詩

蛙よ
口笛をふいて
寂しい月蝕をよべ
花火をかこんで
青い冷や酒を傾けよう

II
青イ花

トデモキレイナ花。
イツパイデス。
イイニホヒ。イツバイ。
オモイクラキ。
オ母サン。
ボク。
カヘリマセン。
泥ノ水口ノ。
アスコノオモダカノネモトカラ
ボク。トンダラ。
ヘビノ眼ヒカッタ。
ボクソレカラ。
忘レチヤッタ。
オ母サン。
サモナラ。
大キナ青イ花モエテマス。

IV 秋の夜の会話

さむいね
ああさむいね
虫がないてるね
ああ虫がないてるね
もうすぐ土の中だね
土の中はいやだね
瘦せたね
君もずぶんぶん瘦せたね
どこがこんなに切ないん
腹だとかね
腹とつたら死ぬだらうね
死にたかあないね
さむいね
ああ虫がないてるね

V
サリム自伝

蛙・作品第二二番

戦争をするのは平和のためである。
人民あるいは人類のためにその平和のために人を殺さなければならぬ人々を殺すのはすべて平和のためであり人を殺すためではない。
人を殺すためにはないが人を殺すのである。
話はいよいよこみいってきて人を殺す遊戯も平然はじまるのである。

おれのふるさとソンミ。
ソンミでの大虐殺も平和のためだといわれている。
右腕のつけ根をノコギリで切られた男もいる。
ザクロの乳房。
マニラ麻の縄で胴つ腹や首を手首をつながれ。ジュズツなぎにされ。すべて平和のために！
銃口がむけられ。
dddddd d
d d
ddd ddd dddd ddd ddd

おれはそのとき。
小川の流れている原っぱに逃げる筈だったが、あわてて逆に倒れこんでしまった半死人たちの下積みになり腹がやぶけた。
おれにも成仏はない。
大きなコウモリに化けてソンミの空をとんでいる。 いまでも、だれもおれに気がつかないようにだが。
大きな黒いコウモリになって。

VI ごびらつふの独自

てるえさる びる もれとりり がいく。
 ぐう であとびん むはありんく てるえさる。
 けるえさる さみんだ げらげれんで。
 くろおむ てやらあ るん るるむ かみ う りりうむ。
 なみかんだ りんり。
 なみかんだい りんり もろうふ ける げんけ しらすてえる。
 けるば うりりる うりりる びる てるえさる。
 きり ろうふ ぶりりん びる けんせりあ。
 じゆろうで いるあ ぼらあむ てる あんぶりりよ。
 ぶう せりを てる。
 りりん てる。
 ぼろびいろ てる。
 ぐう しありる うぐらびら とれも てる ぐりせりや ろとうる ける ありたぶりあ
 ぶう かんせりて る りりかんだ う きんきたんげ。
 ぐうら しありるだ けんた てるてえる とれかんだ。
 いい げるせいた。
 てるけ ぶりむ かにん りんり。
 おりちぐらん う ぐうて たんたけえる。
 びる さりを とうかんでりを。
 いい ぶりやん げるせいた。
 ばらあら ばらあ。

日本語訳

幸福といふものはたわいなくつていいものだ。
おれはいま主のなかの諸のやうな幸福につつまれてゐる。
地上の夏の大歓喜の
夜ひる眠らない馬力のはてに時間なのかの世界がくる。
みんな孤独で
みんなの孤独に通じあふたしかな存在をはばの意識し
うつらうつらの目をすすことは幸福である。
この設計は神に通ずるわれわれ。
侏羅紀の先祖がやつてくれた。
考へることをしないこと
表直なこと
夢をみること。
地上の動のなかで最も水い歴史をわれわれがもつてあるといふことは平凡ではあるが偉大である。
とおれは思ふ。
われわれとか価値とかそんな道程のことではない。
われわれはただたわいない幸福をこそうれいとする。
ああ虹が
おれの孤独に虹がみえる
おれの単純な脳の組織は
言はば即ち天である
美しい虹だ。
ばらあら ばらあ



男声合唱組曲

五つのラメント

～ 草野心平の詩による ～

草野心平の詩風は初期の生活感情を濃厚に盛った現実的な傾向から、次第に根本的な悠久無限の世界への郷愁、憧憬をうたう方向へと移っているが、その根底に流れているのは、エネルギーな泡立つ生の意欲であり、一種のたくましい生命感である。蛙の詩と富士山の詩が特に有名で、前者は蛙の世界を寓話的に描いて、そこに作者の人間的な共感をにじませている。また、彼の詩は俗語や漢語、それに擬声語を多用して、力強く韻律的に歌いあげる男声的な骨格を持っている。そして、今日とりあげるこの「五つのラメント」は五曲がそれぞれ別の詩集に属していて、作られた時期も違っているが、これらは相補いつつ、一貫した主題を示していて、詩の内包する世界というものが、あまりにも巨大である。草野心平の詩における枢軸というものが「蛙」、「富士山」、「天」と三つの世界に相当すると思われるが、草野心平の内的宇宙の広さ、詩における無限のイメージ等、本人ではない我々がすべてを理解することは不可能である。しかし「天」の世界に入ろうとしている我々グリーメンであるので少しでもその詩の世界というものを理解し、その歌声を天にいる草野心平氏に伝えたいと考える。

I. 十字架

広漠とした宇宙空間とあまりにも小さな人間、永遠の時間に比べると、あまりに短い人の一生。しかし、その時空交叉点（クロス）である。「私」の中にも激しい思いが生まれ、果てしなく肥大し、はかない願いと知りつつ、打ちふるえるのである。

II. さようなら一万年

気の遠くなるような空間と時間を一匹の蛙が眺めている。

III. 天のベンチ

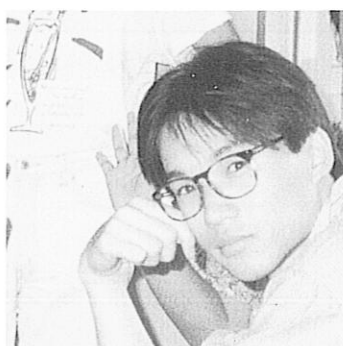
木立の下、日光に冴える「あなた」の横顔、しかしそこは天上である。そして「あなた」の顔はいつのまにか、北溟の地、ツンドラの光景となってゆく。やがてその遠い果てから悲しみの楽音がきこえる。

IV. オーボエの雲

雲は次々と生まれる。新しく誕生するもの、のびやかに育ってゆくものへの限りない祝福の歌である。

V. Volga

ロシアの大河ヴォルガ。悠々と流れるこの河を望みつつ、人間の営みについて、おろかさ、むごさ、空しさへの思い。すべての思いは「アール・イン・ゼン」という呪文のような言葉となり、時には怒り、悲しみ、又、詠嘆、哀悼のようで、さらに鎮魂の祈禱文のようである。



指揮者 澤 文 雄

関大グリーの指揮者は裕貴くんの叔父さんだ。ふみおじちゃんというわけだ。えらいのである。部員の信頼が厚いわりには身体は薄く、関節が硬いわりにはギャブルが大好きで、「気合や！」と拳を上げるわりには少女まんがに涙する。少食のわりには面食いで、シャカシャカと素早く歩く。大雑把なわりには部屋がキレイ。自宅生には一夜の楽園として親しまれたものだ。好き嫌いははっきりしており煙草はすうがジーンズは履かない。

昭和45年、三重県鈴鹿市に生まれる。現在関西大学経済学部4回生。本年度指揮者、クラブの要。

I. 十字架

石炭色の。
冷たい天に。
時空の十字架。
青く光り。

考へもしないわたくしに。
眼をつぶると儚い希ひも時には生れ。
現象されるその夢の。
その強引の。
また遠く去る。
及びもつかないその涯で。

宇宙塵。
しづむ墨汁の海底に。

時空の十字架。
青く震へ。

II. さようなら一万年

原題：さやうなら一万年

闇のなかに。
ガラスの高い塔がたち。
螺旋ガラスの塔がたち。
その気もとほくなる尖頂に。
蛙がひとり。
片脚でたち。
宇宙のむかふを眺めてゐる。

※2
読者諸君もこの尖頂まで登つて下さい。

いま上 天は夜明けにちかく。
東はさびしいNile blueで。
ああ さやうなら一万年の。
楽譜のおたまじやくしの群が一行。
しづかに。
しづかに。
動いてゐる。
しづかに。
しづかに。
動いてゐる。

※1 合唱曲では「高い」は省略されている。
※2 この一行は省略されている。

III. 天のベンチ

木立はくろくしんとしてたち。
あなたの横顔は白いおぼろ。
あなたの鼻を。
月の光りが隈どつてゐます。

ああ。
天の木立。
天のベンチ。

肋骨あたりがなんだかさわぎ。
そのままじつと。
じつとしてみて下さい。
あなたの頬はひろーいツンドラの雪になり。
馴鹿の群が肅々としてすすんでゐます。
地平はるかに。
かなしい楽器がなつてゐます。

IV. オーボエの雲

十二歳の小林明子さんにおくる

オーボエの雲が流れる。

オーボエの雲が。
東から。
西へ。

オーボエの雲が流れる。

空にはあるのか。
このあたりには風もないのに。
オーボエの雲が。

流れる。

愛しく。
愛しく。

オーボエの雲が。
流れる。

セルリアンの空に。
わずかに染って。

オーボエの雲が流れる。

十二歳の雲から。
雲は次々に。
新しい雲も。
流れるだろう。

オーボエの雲。
セルリアン。

流れる。
流れる。

V. Volga

タシケント・モスクワ間の機上にて

aar in zen aar in zen in zen aar in
zen aar in zen

Volga
Volga

鈍く光る。銀の。
Volga
うねうねの帯。

aar in zen aar in zen

曾ては流水に血がまじり。
屍体が流れ。
馬の首。
えぐられたもの。
が流れ。

aar in zen aar in zen

悠々。
ただ鈍く光って。
今日もまたそのコマギレであることの歴史は流れ。
流れ去り。

aar in zen aar in zen

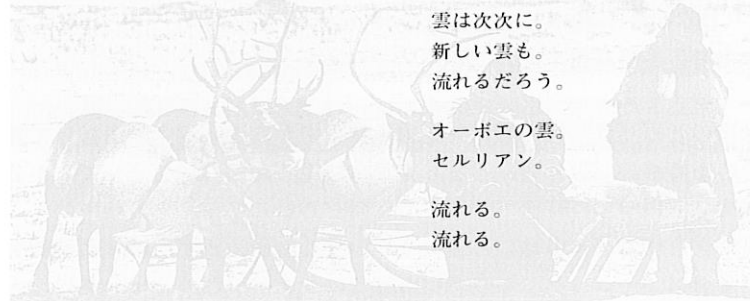
Volgaの底に
沈んだもの。
もろもろのもの。
流れ去り消え去った。
もろもろのもの。

aar in zen aar in zen

歴史は時には逆流し、
(生々しくよみがえるもの。)

Volga
三重写しの。
しかし悠々の母なる動脈。

aar in zen aar in zen aar in zen
aar in zen aar in zen aar in zen





Finnish Winter Chorale Works

ヨーロッパの北西の辺境に位置し、森林面積が大きく空気が澄んでいる国、フィンランド、そしてスウェーデン。

これらの国に代表される北欧の名曲を、私たちは今年とり上げました。

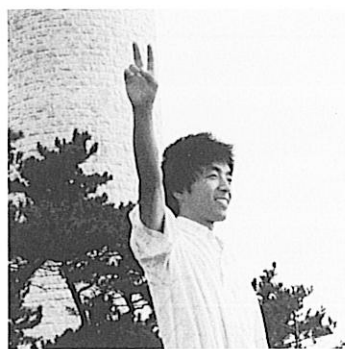
フィンランドの音楽は民族ロマン主義が根強く、現代になっても多くの作曲者にインスピレーションを与えています。

フィンランドの大作曲家シベリウスにつづく世代では、マディトヤ・クーラ・パルムグレンなどが、きわ立った民族ロマン主義の作風を示している。今回はマディトヤ・パルムグレンの美しく重厚なハーモニーを演奏したいと思います。

スウェーデンの音楽は、その背景に民族音楽とキリスト教のもたらした教会音楽があります。中世スウェーデンの聖歌とセクエンティアについては14世紀の初めには教会でオルガンが用いられ始めています。礼拝ではラテン語とスウェーデン語が共に用いられ、ラテン語のミサ曲も歌われました。今回はそのラテン語のみですが長調とも短調ともつかない無調の部分もあり、それも男声には少ない各声部の掛け合いもある新鮮なハーモニーをお届けしたいと思います。

また、これらの曲は共通して冬というテーマをもっています。皆様に雪の降りしきる、しかし人と人とのあたたかい情感のただよう北欧の街並を伝えられれば幸いです。

最後になりましたが、選曲、構成にご尽力たまわりました松原千振先生に感謝の言葉をこの場をお借りし述べさせていただきます。



指揮者 近田 勇人

兵庫県小野市出身、小野高校卒業。

甲南大学経済学部4年生。

彼は毎日練習のためだけに神戸電鉄粟生線の無人駅から1時間半以上掛けて通学している。そのため都会（阪神間）の者と話が合わず、全国の駄ジャレでしか会話せず、それは会話というより怪話であるので部員からひんしゅくを買っている。

そんな彼がアンサンブル中はいっさいそういうことは言わず、淡々と練習を続けているので部員はノイローゼにならずに今宵このステージに立っているのです。

I. ALTA TRINITA BEATA

Alta trinita beata, da noi sempre adorata,
Trinita gloriosa unita mara vigliosa!
Tu sei manna saporosa e tutta de siderosa!

II. RAMUS VIRENS OLIVARUM

Ramus virens olivarum per columbam panditur;
binum genus animarum arca Noë clauditur.
Christus nobis Patrem oret, pacem servans patriae,
Laudisturba quem decoret firma fide varie.
Ergo plebs Finnonica gaude de hoc dono,
quod facta es catholica verbi Dei sono.

III. HOSIANNA

Gören portarna höga och dörrarna vida
och häng slingor av grönt över ringmuren,
din dotter Sion statt upp, att din Konung må rida,
som en ärones Konung må draga därin!
Låten harporna ljuda, basunerna stöta och lägg kläden
och palmer fär Konungens fot, låt ditt folk strömma ut
att sin härskare möta, under glädje och gamman gå sin
Konung emot! Bortom skyn ärhans rike av vin och av honung,
bortom skyn ärhans härskarors vapendån,
han är kärlekens kung han är frihetens Konung,
klinga högt, Hosiannah, Davids son!

IV. NÄT DET LIDER MOT JUL

Det strålar en stjärna förunderligt blid, i öster på himlen hon står.
Hon lyst över världenes oro och strid i nära tvåtusende år.
När dagen blir mörk och när snön faller vit, då skrider hon närmre,
då kommer hon hit; och då vet man att snart är det jul.
Och julen är härlig för stora och små, är glädje och ljuvaste frid,
är klappar och julgran och ringdans också, är lycka oändligen blid,
är ljus, allas ögon då stråla som bäst, och stjärnorna tindra som mest;
och där ljuset är där är jul, där är jul.

V. TALVINEN TIBER

Talvinen Tiber kullassa kuulaan ehtoon vierivä linnojen liepeitä sypressilehtoon,
Vartija mykkä raskaan, tahratun laineen,
vanhus uupunut onneen murhan ja maineen.
Talvinen Tiber, kuutamoleikien pirta, muinen kansoille kohtalon
vihapää virta..... Vaipuvat varjoon portaat autiot, loivat. Nunnat
laulavat hiljaa, kellot soivat, kellot soivat.

VI. JOULUYÖNÄ

Koristeissaan killtää kuusi luo tupahan tuoksuaan.
Lumi äsken satanut uusi kuin harsona kattaamaan.
Nyt vanhojen huolet hukkuu kuin pilvehen peittävään.
Hymy huulilla lapset nukkuu yhä käärot käsissään.
Tänä yönä enkelin siipi yli kattojen hiljaa lyö.
Syvä hartaus mieliin hiipii, pyhä, kirkas jouluyö.

男声合唱組曲

富士山

男声合唱組曲「富士山」について 多田武彦

1953年11月から翌年の2月まで、月に一度来阪される清水脩先生に、私は対位法を教わった。二回目のレッスンのとき、先生は「何か習作を作って来なさい」と言われた。

このときの習作が、処女作の、組曲「柳河風俗詩」である。清水先生は「この組曲は、それなりに良く纏まっていたが、歌い手の声域を気にし過ぎている。男声合唱曲は、もっとスケールの大きい、ダイナミックなものにしなければいけない」とおっしゃった。

清水先生のこの助言に従って、1956年に作曲したのが、組曲「富士山」である。当然、グリークラブ泣かせの作品となり、初演後は余り歌われなかった。1960年代に入ってから合唱団の技術水準も高まり、また合同演奏で採り上げられる機会が多くなりだして、組曲「富士山」はやっと動き出した。今にして思えば、清水先生は、男声合唱の持つ「繊細さと力強さ」の両極の必要性を、私に教えられたのであろう。

清水先生のこうした薫陶のおかげで、作曲してから35年間、多くのかたがたに愛唱していただいた。またこれを契機に、心平先生の詩を愛読されるかたがたも増えていった。

詩集「富士山」で草野心平先生は、「富士山を取り巻く自然の風物・そこに生きる動物や人間・様々に揺れ動く人々の心」を、あるときは冷徹に、あるときは温かい眼差しを以て、描いておられる。

詩を読む人の側にも、詩集「富士山」に対する様々な念いがあった。私の後輩で、若くして亡くなられたTさんは、生前、勤務地の清水市から富士山を見ていた。彼は、作品第拾陸の「存在を超えた無限なもの／存在に帰る無限なもの」の行が好きだった。富士山を見る度に、この言葉を、自分自身と富士山とに投影させていたのであろう。

私も心平先生の詩に魅せられ、「富士山」のあと、1961年に「草野心平の詩から」(慶応義塾ワグネルソサイエティ男声合唱団)、1968年に「北斗の海」(早稲田大学グリークラブ)、1969年に「蛙」(立命館大学メンネルコール)、1980年に「蛙・第二」(東京六大学合唱連盟)、1983年に「草野心平の詩から・第二」(京都産業大学グリークラブ)、1987年に「草野心平の詩から・第三」(関西大学グリークラブ)、の男声合唱組曲を作曲している。(括弧内は初演団体。「富士山」の初演は、京都大学男声合唱団)

心平先生の詩は、男声合唱音楽に、実に良く解け合う。そしてその表現は多彩である。「富士山」の「作品第壹」や、「第貳拾壹」に見られる構築性の大きいものがあるかと思うと、「草野心平の詩から」の中の「雨」のような凝集美もある。同じく「草野心平の詩から」の中の「金魚」のようなオーバーラップ方式があれば、「さくら散る」に見られる抽象画もある。「北斗の海」の「Berling-Fantasy」の荒々しさもあれば、「富士山」の「作品第肆」の繊細な描写もある。

「蛙」の「黒い蛙」の幻想性と「五匹のかえる」との諧謔性の対比も、興味深い。

こうした多彩な表現と、それを縫い合わせていく言葉のつながりを、そのまま男声合唱に置き換えていくと、そこに草野心平の詩と音楽の個展が開かれる。

I 作品第壹

麓には桃や桜や杏さき
むらがる花に蝶は舞ひ
億萬の蝶は舞ひ
七色の霞たなびく

夢みるわたくしの
富士の祭典

ぐるりいちめん花はさき
ぐるりいちめん蝶は舞ひ
昔からの楽器のすべては鳴り出すのだ
種蒔きのように鳥はあつまり
日本のすべての鳥はあつまり
楽器といっしょに歌っている

夢みるわたくしの
富士の祭典

七色の霞は雪に映え
七色の陽炎になつてゆらゆらする
鹿や猪や熊や馬
人はあないか人もあるある
へうたんの酒や女の舞ひ
標野の人も歌っている

ああ
夢みるわたくしの
富士の祭典

遠く大雪嶺からは黄鳥が
使者になつて花を嘲へて渡ってくる
三つの海を渡ってくる

II 作品第肆

川面に春の光はまぶしく溢れ
そよ風が吹けば光たちの鬼ごっこ
華の葉のささやき
行行子は鳴く
行行子の舌にも春のひかり

土提の下うまごやしの原に
自分の顔は両掌のなかに
ふりそそぐ春の光に
却つて物憂く眺めてゐた

少女たちはうまごやしの花を摘んでは
巧みな手さばきで花環をつくる
それをなはにして縄跳びをする
花環が圓を描くとそのなかに
富士がはひる
その度に富士は近づきとほくに座る

耳には行行子
頬にはひかり

III 作品第拾陸

牛久のはての
はるかのはての山脈の
その山脈からいちだん高く
黒富士
大いなる
はるか
黒富士

さくらんぼ色はだんだん沈み
上天に
金隈取の
雲一点

〈存在を超えた無限なもの〉
〈存在に還へる無限なもの〉
祈りの如き
はるか
黒富士

IV 作品第拾捌

鳴呼
まるで紅色の狼火のように
豊旗雲は満々と燃え

その下に
ズーンと黙す
黄銅色の大存在

まぶしいぬるい光に浮ぶ数数の
豊旗雲の

その下の
地軸につづく
黄銅色

どこからか そして湧きあがる
天の楽音

V 作品第貳拾壹

(宇宙線富士)

平野すれすれ
雨雲屏風おもたくとさし
その絶端に
いきなりガツと
夕映の
富士

降りそそぐそそぐ
翠藍ガラスの
大驟雨

合同演奏指揮

多田武彦

指揮者プロフィール

多田武彦 (60才)、1930年大阪に生まれる。

旧制大阪高校一年 (1947年) のとき、先輩の田中信昭氏 (現東京混声合唱団常任指揮者) に誘われ、コーラス部に入部。無伴奏合唱曲の虜になり、このことが後になって、専ら、無伴奏合唱曲を作曲する動機となる。

1953年京大法学部卒業後は、映画監督への夢を捨てて銀行に就職、融資畑を歩み、いくつかの上場会社に役員として出向、会社再建に尽力。

平日は勤務先の仕事に専念し、作曲は「スケッチは通勤電車の中、浄書は休日に家で」という枠組みの中でおこない、今まで60以上の合唱組曲 (曲数にして約380曲) を作曲。氏の特色は、作曲家故清水脩氏の薫陶による「詩の厳選」。永年の間に、多くの読者によって選抜かれた詩の中から、さらに「詩自体に音楽がある詩」を選び、これを基に組曲としての起承転結を考えながら構成し、「これらの詩の持つ音楽」に寄り添うように作曲をする、といった作曲技法を、頑ななまでに遵守して来ており、処女作の「柳河風俗詩」(1954年作) 以来、氏の多くの作品が愛唱され続けて来た所以となっている。

今宵の演奏について

今回、関西六連の諸君のご好意で、自作自演の機会を与えられた。関西六連からは今までも二度お誘いをいただいたのに不義理をしてきたので、今回は出させていただくことにした。四十年前の学生に戻ったつもりで、関西六連の学生諸君と、今はもう故人となられた草野心平先生のあの笑顔を思い出しながら、精一杯「富士山」を歌い上げてみよう。

多田武彦

作詩者、草野心平プロフィール

草野心平氏は1903年福島県に生まれ、慶応義塾大学普通部を出て中国広東の嶺南大学に学んだ。1925年広東で漢詩『銅羅』を発刊、この年帰国してからは詩誌『学校』(1930創刊)、『歷程』(1935創刊) によって詩壇に活躍した。処女詩集、『第百段級』(1928) および『明日は天気だ』(1931) にはアナキズムの思想が強い。『母岩』(1935) あたりから表現技法も複雑となり、蛙の詩が多くなった。原始的な官能ら擬声音を自由に駆使したフォーヴィスム的詩風に特色があり、『定本・蛙』(1948) のほか『富士山』(1943)、『天』(1951)、『亜細亜幻想』(1953) などの詩集が著名である。先頃、文化勲章を受賞するなど日本を代表する詩人であった。

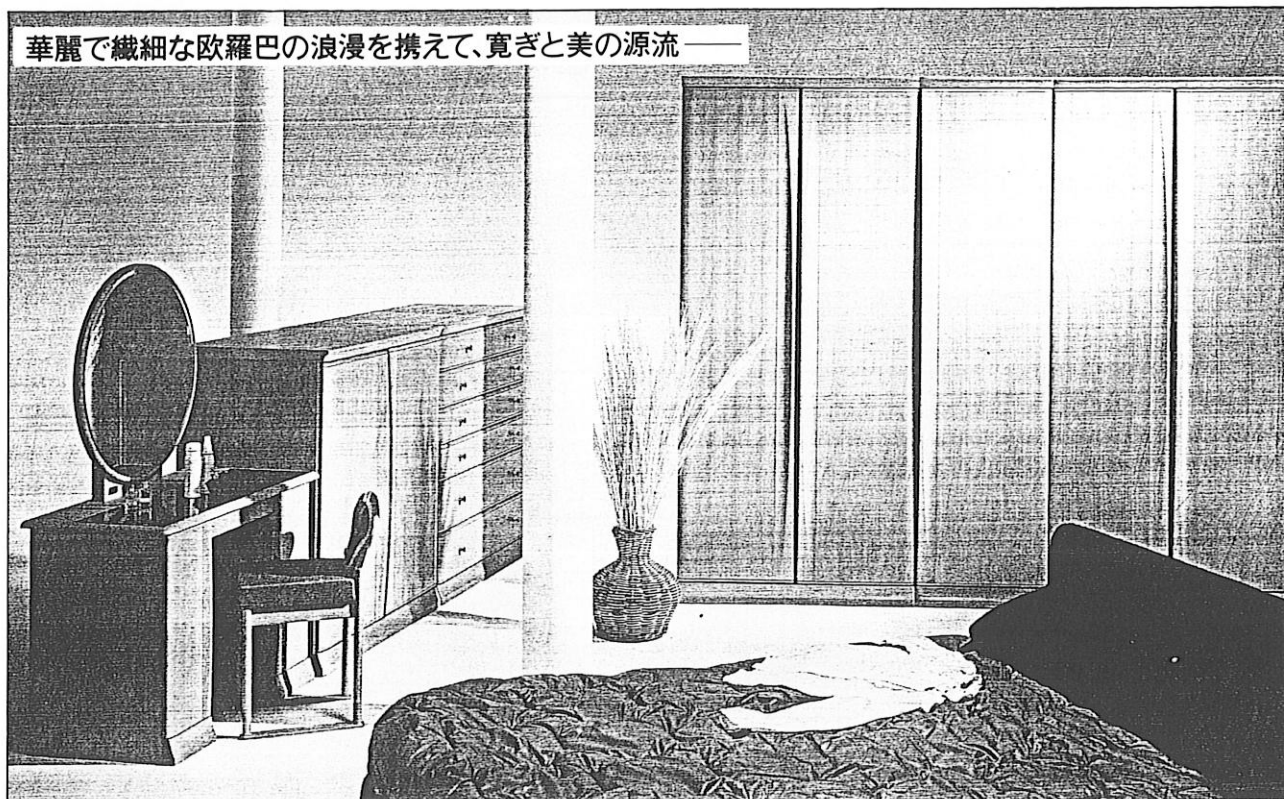
エレガンスという魅惑。



NOUVELLE BOUTIQUE
GIVENCHY
本館2階ジバンシィ・ヌーベル・ブティック

DAIMARU
大丸・心斎橋

華麗で繊細な欧羅巴の浪漫を携えて、寛ぎと美の源流——



ご婚礼家具専門店

TOTAL INTERIOR & BRIDAL COLLECTION BY FAMIITY MATO

マトウ家具

〒556 大阪市浪速区日本橋4丁目10番5号

マトウビル4F~6F (1F・中川ムセン中央店)

☎ (06) 631-3366 (代) 定休日: 水曜日

頑張れ、関大グリー

私達は、共通の音楽を通して
過去を懐古する同窓会集団ではなく、
未来を見つめた同好会集団として
いろいろな活動を展開しています。

関西大学グリークラブOB会

第41回 東西四大学合唱演奏会

1992年6月28日(日) フェスティバルホール

●お問い合わせ先: 関西学院グリークラブホール/TEL (0798) 52-6471 早稲田大学グリークラブ事務所/TEL (03) 208-4100

私達スタッフは、皆様とのコミュニケーションを大切に実績ある技術で
今宵のコンサートのテープ製作を担当しております。



VIDEO & DIGITAL RECORDING
サウンドスタジオ O K A

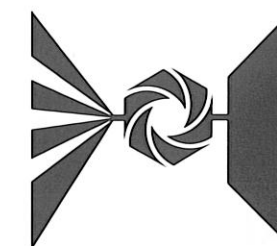
ビデオテープ・LPレコード・オリジナルカセットテープ 企画・製作 〒602 京都市上京区寺町通今出川上る 5
企画・製作 〒602 京都市上京区寺町通今出川上る 5丁目 鶴山町7 TEL 075 (256) 3656

と き
きらめく瞬間を
未来に伝えたい。

好きなことをしている時、
感激で胸がいっぱいになった時、
誰もが、とってもいい顔をしています。

あなたの記念すべきその時を、あなたの素顔にきらめくその一瞬を、私達はのがしません。

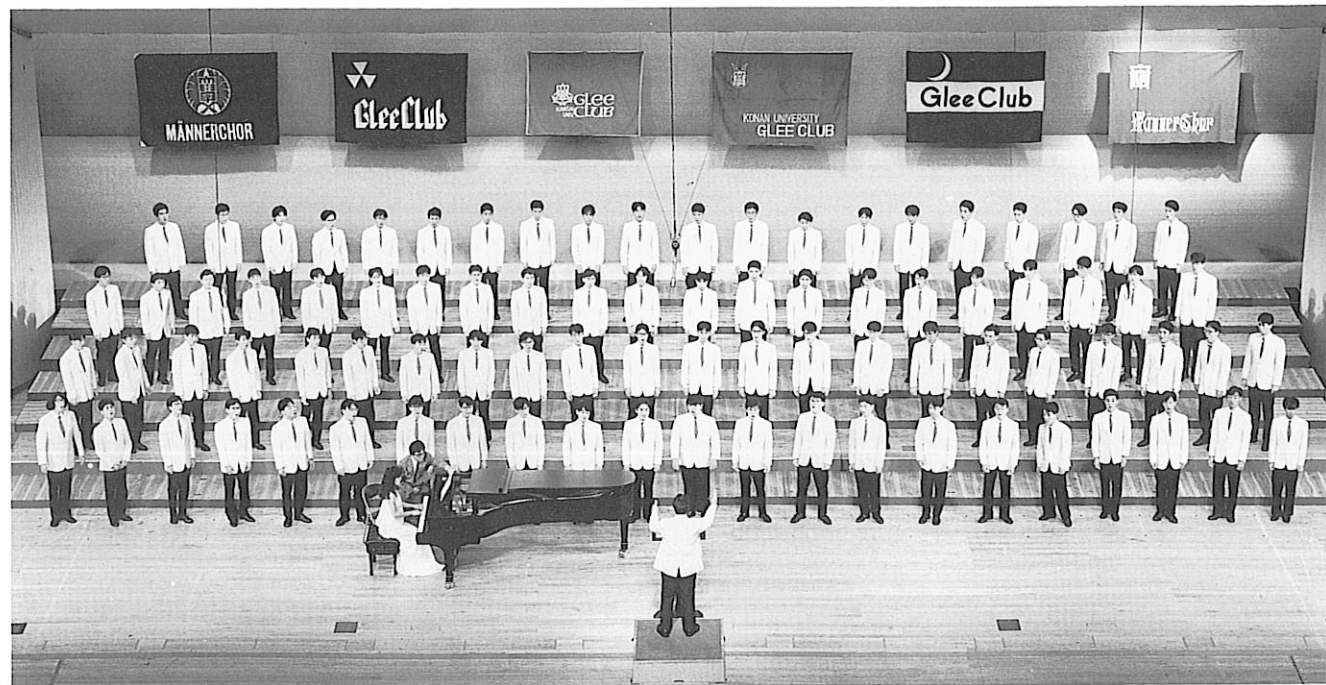
未来に残す素敵な記念写真をお届けするために、いつもいっしょうけんめいの
大阪フォトサービスです。



OSAKA PHOTO SERVICE

株式会社 大阪フォトサービス
〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17
TEL. (06) 443-7608 (代表)
FAX. (06) 443-4437

立命館大学メンネルコール 1st stage



—— 団紹介 ——

ダンディー・ゴージャス・メンネルコール

伝統と新鮮な息吹きが、美しいハーモニーを奏でる古都・京都。その西北に千年の歴史を伝える多くの古刹と調和し、四季の移り変わりを見事なまでに演出する衣笠山の麓に「自由で清新の気風」に満ちたキャンパス、立命館大学があります。

我らメンネルコールは、学内の文化活動を代表するクラブとして「日日は決戦・欲しがりません勝つまでは」・「月月水金土土」とブイブイと練習に励んでいます。

しかし、合唱ばかりでは、ルンルン気分（死語）で大学生活を送ることは現代っ子（死語）にとって困難でしょう。我が団員たちは練習以外の時間を「飲む・打つ・買う」と非常に有効に生かして、メリハリのある充実した生活を送っている様です。今宵、我々の演奏を通じて、我々が我々の理想像「歌うMr. ダンディー」に一步でも近づき、皆様にゴージャスな満足感に浸らすことができればこの上ない幸せです。

「今夜のあなたは一段とステキ…」

最後になりましたが、今後とも浦山弘三、松村富也両先生をはじめとする諸先生方の御指導のもと、より一層の向上を求めて努力を重ねていく覚悟でございます。皆様の御指導、御鞭撻の程宜しくお願い致します。

King of Männerchor

さて、今宵は、我が立命館大学メンネルコールの部長を紹介したいと思います。部長の富吉さんは、単なるバカである。何故なら、某団員によると卒業に必要な授業には出席しないが、学内でのソフトボールには、必ず顔を出し、クラブの最中には、見せない情熱をパチンコ・麻雀・その他etc…に注いでいるのである。そして、団員たちには、その情熱をクラブに注いであげたらと果れられている。確かに、彼は、部長としての力量は、世界中で最後位から10番以内に入っているでしょう。しかし、団員は知っているのです。彼が一人倍メンネルを愛し、情熱を燃している事。どうか皆様、彼が完全燃焼出来るように、見守っていてやって下さい。団員一同より、心からヨロシクお願いします。

—— 部長・富吉久雄に栄光あれ ——

部長 富吉 久雄



—— Members ——

TOP TENOR

戸川 拓司 (産4)	堀 文夫 (経4)	吉川 信之 (産4)
井ノ本 享 (経3)	上田 茂 (理3)	高橋 史泰 (法3)
多賀 寿史 (営3)	守川 健朗 (文3)	石井 一也 (文2)
大橋 伸行 (法2)	川本 光哉 (経2)	酒徳 泰行 (理2)
笹川 修平 (文2)	村里 正寿 (営2)	山本 真久 (法2)
金子 勝治 (法1)	森脇 康行 (経1)	山口 晃 (理1)

SECOND TENOR

杉浦 傑 (法4)	谷口 友章 (産4)	山村 和史 (法4)
末富 潤 (法3)	堤 陽一郎 (経3)	西江 郁夫 (産3)
吉峰 幸寛 (文3)	渡辺 好作 (産3)	大西 洋平 (理2)
金子 洋一 (法2)	鎌原 宏充 (法2)	鮫島 治 (理2)
瀬戸 靖久 (法2)	瀬戸 淳司 (産2)	高田 太 (理2)
筒井 和彦 (営2)	近藤 利彦 (法1)	杉浦 順一 (営1)
瀬田 英啓 (法1)	春山 真一 (産1)	藤本 和弘 (法1)
宮村 真 (理1)	元井 康博 (法1)	山本 知弘 (法1)

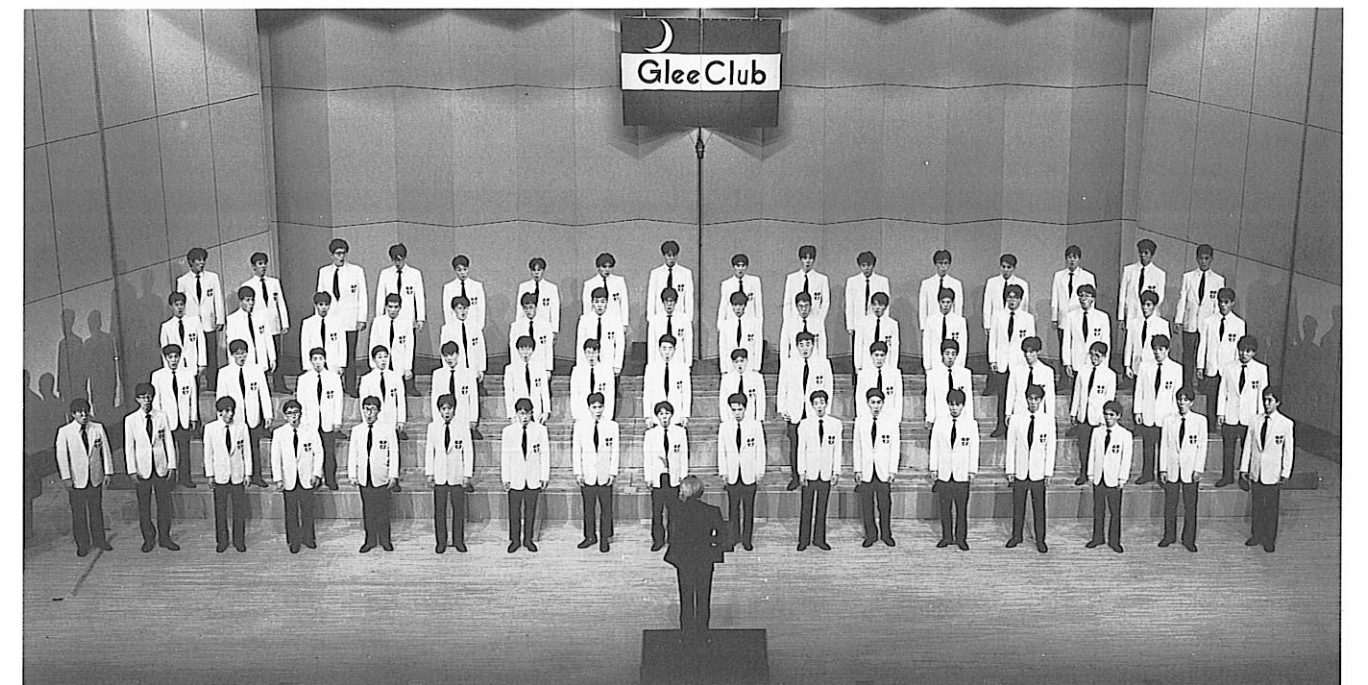
BARITONE

中村 英一 (経4)	原田 太郎 (営4)	樋口 勝久 (経4)
福本 文章 (営4)	藤原 道良 (理4)	宮崎 正義 (法4)
草垣 猛 (経3)	小林 伸行 (理3)	辻 健二郎 (営3)
徳山 学 (文3)	石原 篤 (産2)	大脇 啓一 (経2)
橋爪 清光 (産2)	藤井 正晃 (経2)	米澤 稔 (経2)
渡部 俊郎 (法2)	井本 慎治 (理1)	太田 尚宏 (法1)
識田 寿文 (文1)	鹿島 浩司 (理1)	柏木 隆伸 (営1)
榊原 集 (営1)	榊原 龍介 (経1)	清水 陽一 (理1)
高田 茂樹 (法1)	田中 芳樹 (文1)	永井 智之 (経1)
丸山 次郎 (文1)	村岡 克彦 (営1)	安沢 基 (経1)

BASS

小林 浩二 (法4)	小林 徹也 (営4)	高松 浩 (経4)
富吉 久雄 (経4)	松下 隆寛 (産4)	石原 伸政 (理3)
木本 岳人 (理3)	田中 淳志 (産3)	日高 幹夫 (理3)
今西 友広 (経2)	片岡 伸浩 (経2)	広瀬 聡 (産2)
藤村 哲也 (法2)	秋田隆一郎 (法1)	穴見 友彦 (文1)
伊藤 誠 (法1)	上村 新吾 (理1)	常住 信教 (文1)
鳥本 俊彦 (理1)	山本 修 (理1)	

関西学院グリークラブ 2nd stage



—— 団紹介 ——

日本最古の男声合唱団として知られる関西学院グリークラブは、1899年神戸市郊外原田の森に誕生以来、今年で92年を迎えました。非常に恵まれた自然、荘厳な雰囲気の中に包まれて、学院の建学の精神でありますMastery For Serviceを基礎に、「練習のための練習」「メンタルハーモニー」をクラブのモットーとして、日々厳しくも楽しい練習に励んでいます。

春期演奏旅行、東西四大学合唱演奏会、夏期演奏旅行、北村協一先生還暦記念コンサート、関西学院グリークラブフェスティバルと、今年もたくさんの活動を行ってまいりましたが、それもかなり遠くのことのように思えるほど、多忙であったようです。6月の東西四連では、慶応、早稲田、同志社の各合唱団との技量を競うのはもちろん、お互いの交流もまた一歩深まったような気がします。単独演奏曲「北陸にて」は、北村協一先生の熱心な御指導のもと、曲の持つ叙情性、荒涼感というものをうまく表現できたと思います。

「時代は変わる」といったのはボブ・ディランですが、私達もただ伝統を継承するのではなく、さまざまな人間がいるこのクラブにおいて何か新鮮な発見があるよう、頑張っていこうと思います。

がんばれモビー

1968年8月4日大阪生れ。大阪私立清風高校卒。

生粋の大阪育ちである。環境に迎合することの愚かさを知ったのが高校時代。関学のスマートな学風にも疑問を感じた。活動の大きさに魅かれて入部したグリークラブ。時代の過渡期だったのかも知れない。様々な問題・不満を掲げて同回生の半数以上が退部していく中を反発して、ステージマネージャー、六連委員、四連理事、部長と、要職を兼任。疲労で発熱してもクラブは休めなかった。

「明日こそ辞めてやろうと思いつつここまで来ました。やっぱり悔しかったんです。ここで辞めたら一体オレは何なんだ？」と言う。

「どうせやるなら最高のものを創りたい。一度きりの人生、輝やかさないと人間に生まれた価値なんてないでしょう？」と笑顔で問う。

「大切なものは、この混沌とした現在の中で、自分だけの夢を持つことと、夢を実現させる勇気と努力だと思うんです。」

ステージコートを羽織った彼の笑顔は更に眩しさを増した。



部長 中出 茂文

—— Members ——

TOP TENOR

佐藤 暢孝 (文4)	土井 賢志 (法4)	林 美輝 (文4)
山本 知秀 (商3)	打越 三敬 (商3)	小崎 誠人 (法3)
百井 岳男 (法3)	吉岡 洋明 (経3)	岡畑 幸一 (経2)
池下 豊 (経2)	田中 裕之 (経2)	上原 克之 (法1)
木下 泰史 (商1)	福田 隆弘 (経1)	和田 曜 (経1)
井上 淳 (法1)		

SECOND TENOR

福永 理人 (経4)	横内 明彦 (文4)	金山 公洋 (文4)
団 憲一 (商3)	脇田 昌伸 (文3)	谷口 彰 (文3)
宮脇 浩 (社2)	山田 雄一 (商2)	生島 朗 (法1)
小門 操一 (商1)	柴田 正人 (商1)	丹上 敬史 (文1)
下坂 淳 (社1)	下岡 晋 (文1)	

BARITONE

山田 潤 (文4)	中出 茂文 (商4)	本莊 武志 (経4)
宮崎 恒志 (社3)	神田 卓彦 (文3)	三宅 直 (社3)
井崎 恵二 (商3)	小切 健司 (法2)	西條 誠一 (商2)
森田 義久 (商2)	松村 哲治 (経2)	小西 健一 (法2)
大井 俊明 (経2)	酒井 由行 (文1)	下村 純平 (法1)
伴野 考司 (法1)	宮本 貴章 (商1)	祢宜 悟 (文1)
柴田 大 (文1)	乾 友範 (法1)	

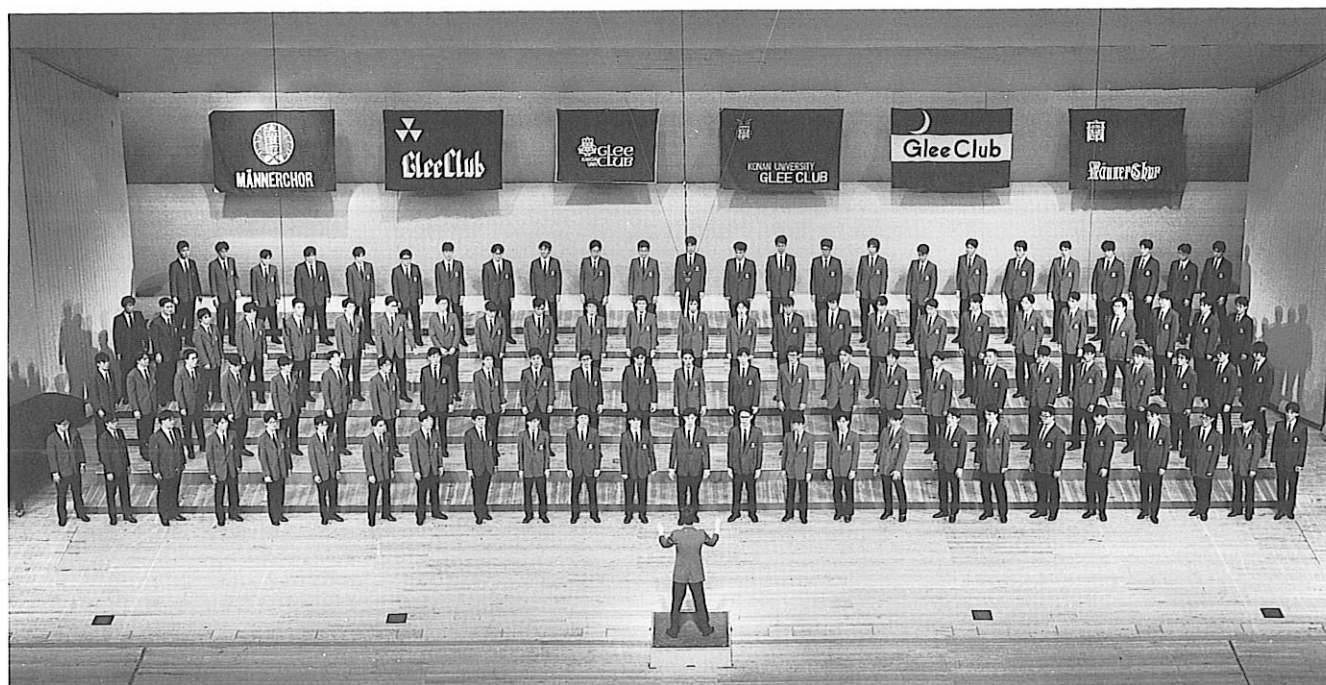
BASS

芳賀 和弘 (経4)	橋爪 崇 (経4)	難波 俊二 (理4)
次田 雅彦 (商3)	近藤 淳哉 (文3)	川本 賢哉 (経3)
中尾 吉宏 (経3)	平尾周一郎 (経3)	丸山 武彦 (法2)
斗山 英紀 (法2)	水口 真士 (経2)	森 誠太 (商2)
江種 宏則 (文1)	大塚 範幸 (経1)	片山 哲朗 (文1)
高橋 克明 (文1)	渋谷 龍則 (法1)	岸本 周士 (経1)



大阪大学男声合唱団

3rd stage



団紹介

皆様、こんばんは。今年もこのフェスティバルホールに大阪大学男声合唱団がやって参りました。

さて、今年もこの六連までにいろいろな事がありました。咲き誇る桜がまぶしい頃、甘い悪魔のささやきに誘われて、40余名の一回生が入団しました。今年の一回生はヤル気があるのか、はたまた単に変なだけなのか、一人としてやる者がなく、団員数は120名を目指す勢いです。そして、「今年は、はっきり言って勝つための布陣にしました。」と、かけ声勇ましい六連マネY野のもと、5月3日の六連運動会に臨みました。酒に弱いながらもビールを一気のみした運営委員長W辺（その姿は団員の涙を誘っていた!?）とゲテモノ食いの指揮者N津の節間で、指揮者・部長レースを制したものの、続く競技ではなかなか勝てず、早くもあきらめの空気が漂っていましたが、何故か見事昭和60年以降の優勝を成し遂げたのでした。応援して頂きました武庫川女子大学コーラス部の皆様には厚く御礼申し上げます。また、7月4日にはシンフォニーホールにて松山大学グリークラブの皆様と、Joint Concert「松阪牛」を開催しました。遠く離れた2団が、浅井敬堂先生の指揮のもと一つの音楽を作り上げる喜びを改めて実感できました。また、男同士の濃厚な交流ができた点でも有意義な演奏会でした。

そして、今宵我々は、おしゃべりな青ブレに身をつつみ、「チャイコフスキー歌曲集」を歌います。我々の合唱に対する熱い想いが、歌声に乗って皆様へ届けば幸いです。

最後になりましたが、技術顧問の浅井敬堂先生、ヴォイス・トレーナーの北村敏則先生をはじめ御世話になりました諸先生方に深く感謝致しますとともに、今後とも一層皆様の御指導・御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

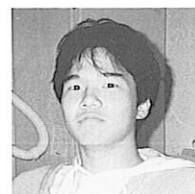
わたしの充くん♡

六連渉外のY野君がどうしても言うんで、私のステディー、充くんの紹介をします。彼の役職は運営委員長とあって、阪大男声の中でも一番偉い人物なの。夫婦になっている副運営委員長の太東くんとのコンビもぴったりで、阪大男声をそのにやけた笑顔でぐいぐいひっぱっている。私もそんな充くんが好き。でも私生活では私があなたの妻ですからねっ♡。充くんの経歴を見てみると、埼玉の名門、川越高校を首席（多分）で卒業後、ストリートで阪大に入った秀才くんなの。昨年は阪大男声幹部の登竜門、六連渉外を務め上げ、他大学からの信頼も抜群なの。Sexual Dynamite Show-Guyとして、女子大の人気も沸かしたんだから。誰か他の女に奪われるんじゃないかと、ずいぶん眠れない日々を過ごしたんだから。だって充くんの口って本当によく動いて、私も初めは「だまされたかな?」と思ったくらいだもん。

そんな充くんも、今は団の活動と私を上手に両立してくれています。でも、一年待たされるのはちょっと淋しい……。それから充くん。大事な演奏会に汚いジーンズ姿で行ったり、ロイヤル・ホテルにシャツの裾を出した薄汚い格好で入ろうとしたりしないですね。それから、電気剃刀で鼻毛を剃ったり、ありもしない団員の噂をでっち上げたり、団員に目撃されるような時間に下宿に呼び出したりしないですね。そんな充くんですけど、高野山合宿では、早朝金剛峯寺に一泊してくれたり、団員が窃盗で警察に捕まったと聞けば、短パンTシャツ姿で身元引受人になったりと、とってもやさしいところがあふれています。

そんな充くんが私にとって大切な だ・ん・な・さ・ま♡です。

運営委員長
渡辺 充



Members

TOP TENOR

小村 博之 (理4)	田上 士郎 (理4)	田村 誠 (人4)
成田 真也 (法4)	西村 隆志 (工4)	堀江 直人 (経4)
大坪 真一郎 (法3)	尾崎 雅之 (法3)	倉永 知明 (工3)
西本 勝也 (法3)	根津 昌彦 (工3)	江浪 武志 (医2)
工藤 卓 (基2)	末崎 敦史 (薬2)	向井 卓 (工2)
綿林 寛資 (基2)	浅川 知洋 (経1)	柿原 淳謙 (理1)
川西 隆行 (法1)	北野 勝久 (工1)	北村 潤 (工1)
小松 貴英 (理1)	高田 鮮 (法1)	西田 大介 (工1)
富士 秀 (法1)	増田 一郎 (法1)	

SECOND TENOR

大西 枚宣 (基4)	大西 克平 (工4)	早川 泰正 (経4)
河口 真一 (理3)	島村 栄 (基3)	白崎 博生 (基3)
中川 潤一 (基3)	萩野 圭一 (文3)	林 克之 (経3)
市村 淳一 (文2)	彌永 直行 (工2)	岩本 敬 (工2)
小山 昌城 (理2)	定好 千春 (工2)	石垣 嘉信 (工1)
岩井 敬文 (工1)	梅山 恵明 (工1)	公文 一博 (理1)
黒田 淳郎 (経1)	高見 崇 (工1)	柳 陽介 (法1)
藤江 一成 (工1)	藤岡 英典 (工1)	守山 孝明 (人1)
山崎 昭実 (工1)	吉田 裕信 (法1)	

BARITONE

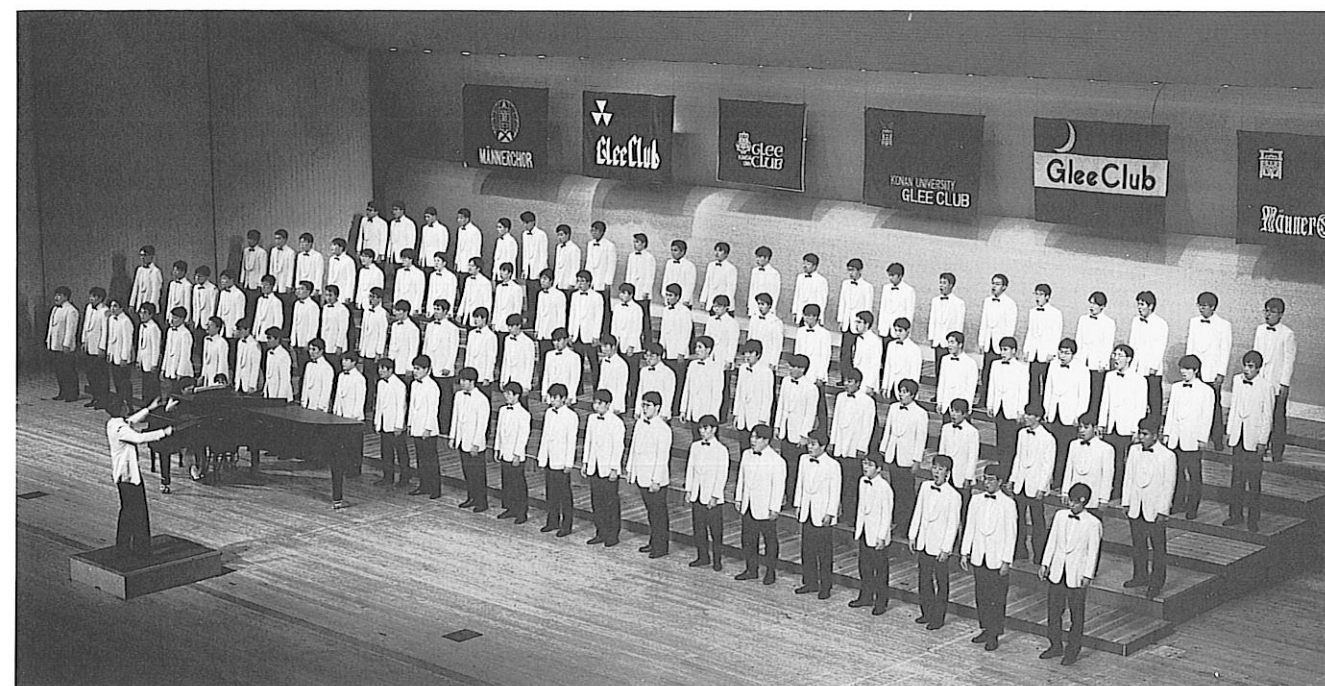
大平 竜士 (経4)	香川 雅信 (文4)	堺 寛 (基4)
崎谷 洋毅 (経4)	米澤 卓也 (基4)	渡辺 光 (基4)
和田 英之 (工4)	伊藤 睦弘 (工3)	上村 智喜 (工3)
上山 憲昭 (工3)	高橋 秀和 (理3)	松本 光生 (基3)
山野 弘喜 (工3)	吉川 明寿 (基3)	五十嵐達郎 (法2)
池田 英生 (工2)	大堀 力 (基2)	彼末 一則 (理2)
楠瀬 賢也 (基2)	坂下 博一 (工2)	清水 計成 (工2)
高多 学 (工2)	高田 和宏 (基2)	高吉 賢吾 (経2)
村松 伴博 (工2)	大村 歩 (法1)	片平 勇介 (人1)
清家 信 (理1)	曾我部大和 (文1)	高瀬 克信 (工1)
谷 篤史 (理1)	桑谷 直紀 (工1)	平野 茂 (人1)
山内 文彦 (法1)		

BASS

枝松 正幸 (工4)	大東 輝人 (法4)	桑山真二郎 (工4)
小林 太 (理4)	佐々木 徹 (文4)	高谷 浩樹 (工4)
池田 武史 (基3)	井上 信治 (工3)	景安 淳 (薬3)
小西 正芳 (基3)	富田 興史 (工3)	村田 剛 (工3)
荒木 亮太 (文2)	宇田 哲也 (工2)	越田 周平 (理2)
佐伯 圭次 (法2)	松岡 逸郎 (法2)	村井 晶 (基2)
佐口 浩伸 (工2)	山口 剛 (工2)	安藤 薫 (法1)
今仁 武臣 (理1)	太田 武 (工1)	大西 直文 (工1)
越智 正三 (基1)	川北 泰成 (理1)	木村 和広 (理1)
坂元 修 (経1)	鶴崎 宗雄 (基1)	永井 豪 (基1)
長野 公一 (工1)	吉田 篤史 (人1)	

同志社グリークラブ

4th stage



団紹介

御来場の皆様、こんばんは。我団は、同志社大学110余年の歴史の中で、グリークラブと称されるようになってから87年目を迎えるに至りました。今日、私共が目指します「真の音楽的感動」を生み出せるのは、団員の情熱もさることながら、日頃から御支援下さる皆様のお蔭と団員一同心より感謝しております。

さて、「全ての演奏会に成功を」という目標を掲げて始まったこの一年。早いもので、京都府合唱祭、東西四連、金沢演奏旅行など、全て成功のうちに前期を終え、いよいよ今宵の関西六連に臨みます。今宵演奏いたします「青いメッセージ」を通じて客席の皆様と一体になること、これが団員全ての最高の願いなのです。この演奏会後も、本年度の総決算とでも言うべき定期演奏会(12月18日)、全同志社メサイア演奏会と続き、2月には第4回欧州演奏旅行として、イギリス・フランス・ドイツ・スイス・オーストリアを歴訪する予定です。初心を貫き通すよう団員一丸となって、より一層練習に励む覚悟です。

また、この演奏会は今春入部した一回生の関西初ステージであり、必ずや素晴らしいデビューを飾ってくれると信じています。

最後になりましたが、今後も、大久保昭男先生をはじめとする諸先生方の御指導のもと、さらなる向上、挑戦を試みていきますので、諸兄先輩、皆様方の御批判・御支援を宜しくお願い申し上げます。

しあわせもの

いつも素敵な風車武博様、お元気ですか?

6月16日の東西四連の日、あなたのソロをお聴きしてから、私の胸は、あなたのことでいっぱいです。その憧れのあなたが、我が団の為に、スペイン語の発声指導をして下さったなんて夢のよう。お陰で私達も曲を仕上げることができました。これも、あなたが今なお語学を復習されている賜物ですね。

そうそう、噂に聞きましたよ。あなたが、誰か♡から差し入れされた「ぎよびちゃん」と「けろっぴのお風呂セット」を大切にしておられることを。やはりそうなのですね…。最近、少しおなかが出てきたのも、公私共に充実した生活を送られているからなのですね。グスン♡でもいいの。私はあなたのあんま練習台で(何のこっちゃ?)そして、いつも陰から、あなたを応援しています。

四回生で幹事長となった今では、お得意の「ぶれー」を発揮できる機会がなくて残念ですね。まっ、まさか先生に?、そんなことはないでしょう。来春から、また、会社でプレメンとして立派に御活躍されることを、心よりお祈りしています。

あなたのファンより♡



幹事長
風車 武博

Members

TOP TENOR

岸間 昭一 (商4)	西浦 泰郎 (商4)	上谷 潔 (工4)
山田 学 (文4)	吉田 正久 (文4)	播磨 剛 (法3)
林 克己 (文3)	川崎 武史 (経3)	松尾 敏之 (法3)
村上 哲夫 (法3)	朝岡 智昭 (商2)	福田 研二 (工2)
伊藤泰史郎 (商2)	三村 剛司 (法2)	岡 勇蔵 (商2)
山田 憲成 (経2)	中村 義行 (経2)	東 光彦 (商1)
川島 伸規 (商1)	小林 武弘 (工1)	森 俊樹 (文1)
植村 祐介 (法1)		

SECOND TENOR

吉野 暢人 (商4)	加藤 賢一 (法4)	中井 規之 (工4)
小林 啓 (商3)	朝岡 基雄 (経3)	井上 建司 (文3)
加藤 善彦 (工3)	勝田 恒次 (法3)	小川 剛 (法3)
周藤 真 (法3)	田村 常善 (神3)	鹿島 啓 (文2)
国寄 康則 (工2)	森下 貴夫 (法2)	村田 知彦 (工2)
南條 崇 (工2)	人見 幸明 (法1)	岩佐 圭記 (法1)
川西 祐之 (商1)	松田 寅 (法1)	坂野 友紀 (法1)
高岸 宏次 (文1)	亘 幸洋 (工1)	

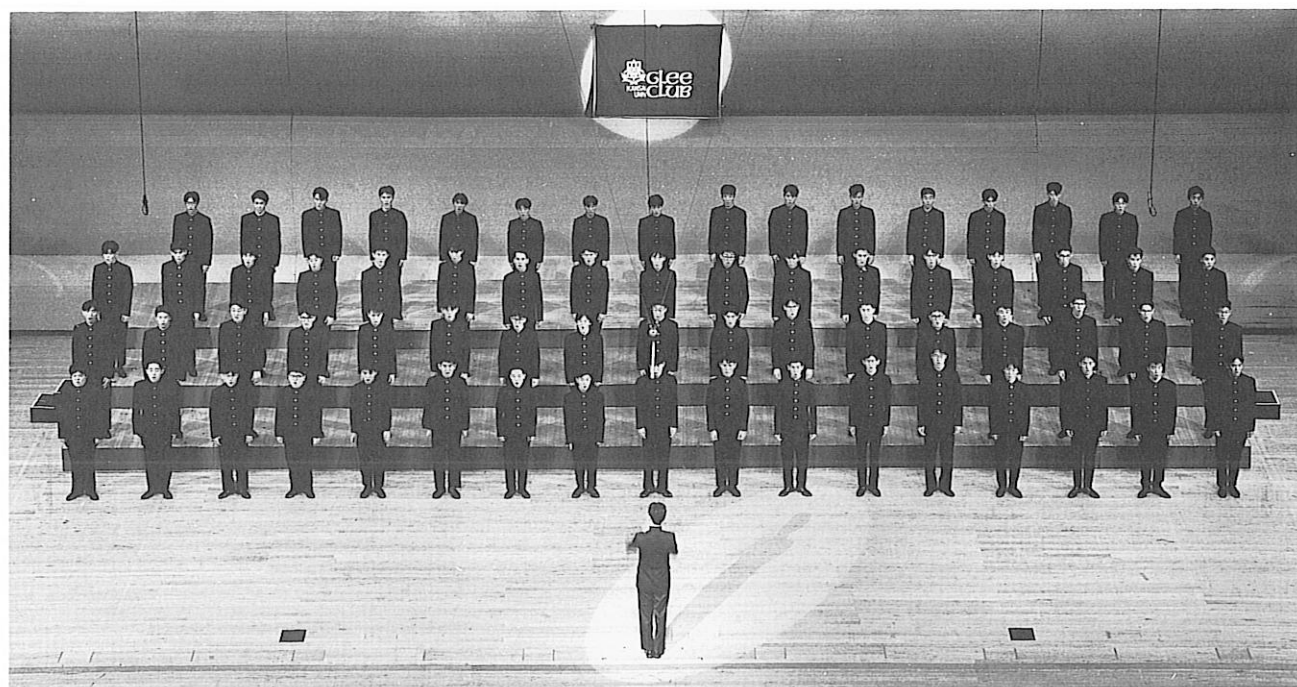
BARITONE

吉本 昌史 (法4)	風車 武博 (商4)	松井良太郎 (工4)
坂西 成和 (経4)	佐々木 博 (文4)	神前 和正 (商3)
木村 拓郎 (法3)	前田 勝祝 (経3)	小倉 嘉夫 (文3)
内桶 貴志 (経3)	藤川 淳史 (工2)	近藤 博和 (工2)
佐々木道哉 (法2)	竹内 秀樹 (経2)	谷本 啓 (商2)
辻 健三郎 (経2)	山口 弘 (工2)	八尋 秋彦 (法2)
荒川 剛 (法1)	土井 邦康 (経1)	長谷川宏志 (法1)
小寺 康治 (商1)	小嶋 徹 (法1)	久保田義臣 (文1)
梅田 充 (法1)	吉武 晃 (工1)	

BASS

松本 亮介 (工4)	朝日 健次 (法4)	堀 博 (法4)
小西 拓也 (商4)	永島 健一 (文4)	田中 佳之 (商3)
池田 保則 (法3)	中野 泰秀 (商3)	鐵見 太郎 (工3)
浅海 誠 (法2)	市之瀬 崇 (経2)	岩本 光司 (工2)
三原 卓 (工2)	奥村 建 (工2)	佐野 泰弘 (法2)
産賀 伸一 (法2)	打田 俊明 (文2)	吉田 泰典 (法2)
三島 晃 (工1)	迫 謙祐 (法1)	佐藤 嘉和 (文1)
白川 行宏 (経1)		

関西大学グリークラブ 5th stage



—— 団紹介 ——

涙なしに語れぬ関大グリー

昔ながらの硬派のイメージを今も残しつつ、しかし新たな時代と共に変わってきたのが関大グリーです。

今年は春の名古屋演奏旅行で始まり、多数の一回生を加え、まずは六連運動会、「くたばれ軟弱」「極悪非道」の旗印のもと、傍若無人にふるまったことは記憶に新しいと思います。しかし、関大グリー、一人一人をとってみるといい人ばかりなので誤解しないでください。六月には第30回法関交歓記念演奏会を行いました。30回を記念して田中均先生に委嘱作品「信連 Nobutura」を作曲していただきました。素晴らしい演奏が出来たと思います。9月には第13回関西大学グリークラブ・千里エコー交歓演奏会を行いました。

今宵は数々の感動的な行事を経て、練習で鍛えられた団員が、「五つのラメント」を演奏します。この曲の表現と共に関大グリー、一人一人の熱い気持ちをくみっていただければ幸いです。

最後になりましたが、御多忙にもかかわらず我々を御指導くださいました横田浩和先生、沢田和夫先生、溝口進哉先生をはじめ諸先生方に部員一同感謝致しますと共に、今後共一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

男の中の男

主将
吉村 功二



吉村功二、関西大学グリークラブ主将である。一見チャーマー派のようだが、中身も同じような奴である。自分の長所を聞かれて「慎重なんだけアバウトなところ」と迷言を吐き、周囲を惑わせた彼も今やすっかりクラブの中心としてふんぞり返っている。昨年の六連運動会のマラソンに出場し、パンツ一枚で地下鉄に乗っていた男とは思えない程貫禄と風格が出てきた今日この頃である。

私生活では、ついにファミコンを卒業し、スーパーファミコンを購入、また休みにはパチンコ、麻雀、競馬にとノリにノッている彼だが、一緒にいるのはいつも男である。中2の時、キャノンボールを観て以来映画館に行ったことのない彼と一緒に映画を観てくれる女性はいないだろうか。こんな彼だが、部員の信頼も厚く、クラブの中での存在感も非常に大きい。これからもグレイグクラブを引っ張って貰いたいものである。挨拶ももう少しうまくなってね♡

—— Members ——

TOP TENOR

高橋 康男 (商4)	田中 照勝 (商4)	横山 雄一 (社4)
鈴木 茂 (商3)	何谷 大輔 (社3)	一瀬 正臣 (工2)
小栗 知之 (法2)	北 和秀 (社2)	間 和史 (社2)
畑橋 良紀 (商2)	井上 直樹 (工1)	坂本 賢治 (商1)
佐藤 誠次 (文1)	筒井 建夫 (商1)	日浦 利晃 (社1)
吉本 博之 (経1)		

SECOND TENOR

伊藤 信明 (文4)	下総 忠士 (経4)	東浦 崇之 (社4)
吉田 雄一 (経4)	鮎川 浩一 (商3)	井上 直也 (社2)
今林 敦彦 (社2)	龜山 尚史 (経2)	舘 英利 (文2)
濱路 俊秀 (社2)	山崎 哲也 (経2)	山脇 徹也 (社2)
新井 浩二 (工1)	新井 伸佳 (文1)	今井 大 (経1)
打田 智幸 (社1)	虎城 正仁 (工1)	白瀬 就平 (文1)
中本 圭祐 (商1)	三重野淳二 (法1)	伊奈 博之 (社1)

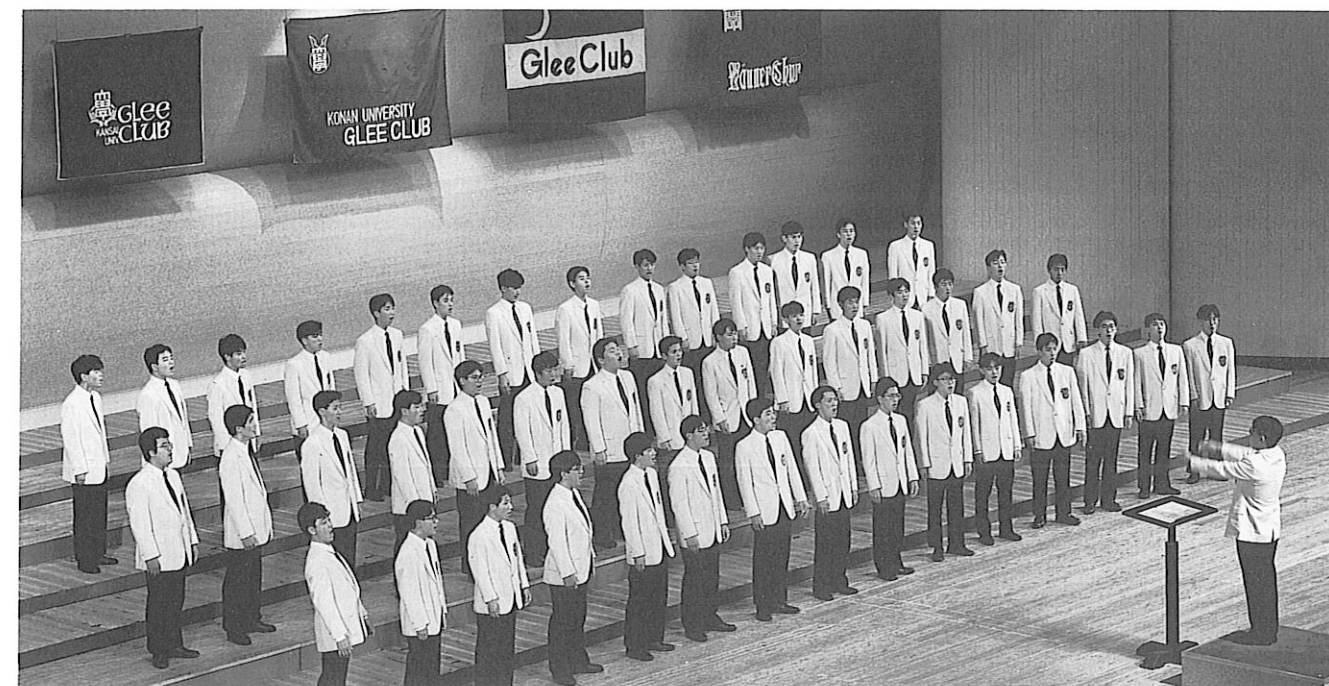
BARITONE

鹿子生 剛 (経4)	澤 文雄 (経4)	中井 肇 (社4)
吉永 哲志 (法4)	吉村 功二 (経4)	菊地 和重 (文3)
平岡 一郎 (経3)	小泉 慶和 (経2)	野原 敦志 (社2)
山下 達哉 (社2)	山本 克也 (工2)	湯浅 明 (社2)
吉田 正典 (経2)	頼 幹二郎 (社2)	池田 喜彦 (経1)
今村 和人 (工1)	岡井 研三 (経1)	垣本 修志 (工1)
土肥 真一 (商1)	中原由志貴 (経1)	平田 和宏 (商1)
松本 大介 (経1)	矢野 篤 (社1)	山之内良洋 (社1)

BASS

赤島 孝幸 (法4)	草場 智則 (法4)	柚友 一紀 (社4)
平井 敏宏 (経4)	前田 勝紀 (経4)	山中 延宏 (経4)
樋口 晃 (法3)	本台 豊 (社3)	門田 亮 (経3)
阿部 徹 (文2)	北出啓一郎 (経2)	原戸 淳 (社2)
藤澤 昌広 (法2)	笠井 雅文 (文1)	見上 篤史 (工1)
津田 和彦 (経1)	中嶋 修一 (商1)	横溝 宙 (法1)

甲南大学グリークラブ 6th stage



—— 団紹介 ——

「僕は死にません!!」皆さんはこの言葉を覚えているだろうか。そうこの9月、好評のうちに終了したTV番組『101回目のプロポーズ』で星野達郎が言ったセリフである。武田鉄矢、演ずる達郎は浅野温子演ずる矢吹薫に恋するのである。達郎は中年のオジさんをそのまま具現化したような男でありカッコ悪いのだが達郎の“薫”への想いはひたむきで、一途で、純粹で、カッコ悪いを通り越してメチャクチャカッコいいのである。そんな達郎の生き様に我々は強く魅かれるのである。なぜなら達郎の“薫”への想いと我々の“音楽”に対する想いが同質のものだからである。必死に“薫”を想い続け、追い求める姿と我々が練習で、演奏会で“音楽”を追い求める姿が重なってくるのである。甲南グリーは星野達郎の人間の集団であり、全員が“音楽”に恋しているのである。物語では達郎の想いは“薫”へと届いた。では我々の想いは“音楽”に届くのだろうか。そのために我々は毎日毎日、練習を積んできた。歌に打ち込む事が唯一、我々の想いを“音楽”に届かせる方法だと信じて。そうしてふと気づく事がある。練習の繰り返しの中で我々はやはり“音楽”が好きだという事を。現在、我々の部員数は六連の中で一番少ない。しかし決して不利な訳ではない。なぜなら、いかなる厳しい状況に追い込まれたとしても、部員の心にこの“音楽”への想いがしっかりと息吹いている限り、我々は不屈の闘志で幾度も立ち上がれるからだ。ましてや部員数など取るに足らない事である。この想いさえあれば甲南グリーに何が起ころうと「甲南グリーは死にません!!」と呼べるのだ。さて我々の想いが“音楽”に届いたかどうかは、今日我々の演奏を聴いていただいた観客の皆様判断してもらいたい。そして「甲南グリーは心の温かい人間の集まりなのか」と問われれば私は迷わずにきつこう答えるだろう。「SAY YES」と……。(以上)

夢みる河知幸宏、22歳 (処女)

委員長
河知 幸宏



朝、8時15分、熱いシャワーを浴びながら今日一日のスケジュールを頭にインプットした。昼からは、とりあえずクラブにいき、夜は……RRR……RRR……、あっ、電話だ。朝から誰だろう、カチャ、「はい、河知ですけど。」「もしもし、私も、あき子よ。」「ああ、君か、もう話はないはずだ。僕は忙しいんだ、それじゃ。」「あっ、待っ」カチャ、最近の女はしつこいなと思いつつ受取オート三輪で大学へ向かった。

夕方、6時35分、さあ、クラブも終わった、さあ今夜は、三宮か梅田かどちらにしようか、今夜は少し遠いがミナミのクアトロに踊りに行こう。阪神高速が少し混んだが、時間的には余裕がある、先にゲネシスに行ってOLでも連れてから行こう。中にはいると、相変わらず、オカマとアメリカ女が踊っている。噂によると彼らは金持ちだそうだが、ふと、向こうを見ると以前見たことのある女がいた。もう一度彼女に声を掛けてみるか……。こんな生活をしてみたい委員長河知幸宏でした。

—— Members ——

TOP TENOR

河知 幸宏 (法4)	廣瀬 正幸 (法4)	向井 善貴 (経4)
山田 壮 (経4)	有光 良文 (経3)	小野田高明 (文3)
巨 正浩 (経3)	大澤 剛 (経2)	吉村 寛 (経2)
片岡 太志 (経1)	酒井 雅之 (文1)	

SECOND TENOR

伊原 信哉 (理4)	西口 修弘 (法4)	春野 修 (経4)
井上 崇義 (文3)	岩元 雅弘 (法3)	新 典和 (法3)
金子 哲也 (経2)	畔柳 康博 (理2)	川野 良雄 (営1)
森 仁成 (文1)	山本 康和 (理1)	

BARITONE

大野 健 (営4)	高田 哲也 (法4)	前川 貫之 (経4)
真鍋多民造 (理4)	岸田 治 (文3)	澤田 敏仁 (営3)
滝川 一雄 (経3)	江口 寿 (経2)	高田 剛 (理2)
平野 智弘 (営2)	大宮 一浩 (経1)	田口 隆二 (営1)
三戸 雅司 (法1)		

BASS

大西 俊史 (経4)	片岡 健 (法4)	近田 勇人 (経4)
稲津 明克 (経3)	富田 宏幸 (法3)	山本誠一郎 (法3)
野々村孝誠 (法2)	藤本 学 (営2)	安川 源太 (経2)
井手 祥三 (法1)		



奈良女子大学音楽部第27回定期演奏会

- | | |
|------------------|-------------|
| I. 「確かなものを」より | 作曲/高田 三郎 |
| II. 「福井わらべうた紀行」 | 作曲/千秋 次郎 |
| III. Messe basse | 作曲/G. Fauré |
| IV. 「ファンタジア」より | 作曲/木下 牧子 |

指揮/山本寿太郎・村重淑子・山本真智子 伴奏/粟田清隆・木下朗子

1991年11月17日(日) 開演PM6:30 奈良女子大学講堂

<連絡先> 水越里香 (0742) 22-7990 (近鉄奈良駅東北出口より北へ徒歩5分)



神戸女子大学コーラス部第19回定期演奏会

- | | |
|--------------------------|------------|
| I. 合唱組曲「はるかな空の歌」より | 作曲/若松 正司 |
| II. おさななじみ「うたは・セ・シ・ボン」より | 編曲/宇田川安明 |
| III. 女声合唱曲「トスティ歌曲集」 | 作曲/TOSTI |
| | 客演指揮/斉田 好男 |
| IV. 女声合唱組曲「遥かな歩み」 | 作曲/高田 三郎 |

1991年11月30日(土) 開場PM6:00 開演PM6:30 神戸文化大ホール

<連絡先> 近藤 (078) 736-3560・濱田 (078) 736-3410



ノートルダム女子大学女声合唱団 第26回定期演奏会

- | | |
|--------------------------|----------------|
| I. MISSA BREVIS | 指揮/ジャン・メルオー神父 |
| II. ファンタジア | 勝間恵子・堀田好子・森野優子 |
| III. Broadways Selection | |
| IV. 永決の朝 | 伴奏/長田育忠・藤井由美 |

1991年12月19日(木) 開演PM6:30 長岡京記念文化会館

<連絡先> 小野 泉 (0726) 81-2620



大谷女子大学合唱団第18回定期演奏会

- | | |
|-------------------------|-------------|
| I. 女声合唱による「おさななじみ」ストーリー | うたは・セ・シ・ボン |
| II. トスティ歌曲集 | 作曲/トスティ |
| III. ドイツ歌曲かな? | 作曲・編曲/早野柳三郎 |
| IV. 女声合唱のための組曲「海」 | 作曲/佐藤 真 |

指揮/辻本恭子・斉藤正義・早野柳三郎・石川悦子

1991年12月20日(金) 開場PM6:15 開演PM6:45

八尾文化会館プリズムホール大ホール

<連絡先> 浅黄 朋子 (0729) 39-6586



甲南女子大学コーラス部第28回定期演奏会

- | | |
|-----------------|----------------|
| I. 確かなものを | 作曲/高田 三郎 |
| II. ファンタジア | 作曲/木下 牧子 |
| III. マンモスの墓 | 作曲/間宮 芳生 |
| IV. Dancing Day | 作曲/John Rutter |

指揮/洲脇光一・春木貴久子・河本若子 ピアノ/藤原睦子 ハープ/西垣英子

1991年12月25日(水) 大阪国際交流センター 開演PM6:00

<連絡先> 平尾由里 (0797) 89-7067



第24回武庫川女子大学コーラス部 定期演奏会

- | | |
|----------------------|-----------------|
| I. 雅楽旋法による聖母賛歌 | 指揮/住吉 武 |
| II. こまどりをころしたのだれ? | 指揮/早速庸子 伴奏/信夫聡子 |
| III. 水のいのち | 指揮/岡田幸代 伴奏/染矢愛子 |
| IV. あなたが歌えと命じる時に/山の夜 | 指揮/平田 勝 |

1992年1月10日(金) 開場PM5:30 開演PM6:00

西宮市民会館アミティホール

<連絡先> 荒木紀子 (06) 876-2097



大阪樟蔭女子大学コーラス部 第28回定期演奏会

- | | | |
|-----------------|--------------------|-------------------------------|
| I. 「フォーレ合唱曲集」より | II. 女声合唱組曲「こころの季節」 | III. ディズニーの世界
～音と光のファンタジー～ |
| 指揮/富岡 健 | 指揮/藤原規子 | 指揮/富岡 健 |

1992年1月20日(月) 開演PM6:45

尼崎市総合文化センター

<連絡先> 半田昌代 (0725) 43-6604

アルカニックホール



神戸女学院大学コーラス部第32回定期演奏会

- | | |
|------------------------|------------------|
| I. MISSA BREVIS | 作曲/W. A. Mozart |
| II. 女声合唱組曲「時が語ってくれたこと」 | 作詩/片岡 輝 作曲/高嶋みどり |
| III. ミュージカル「コーラライン」より | |
| IV. 女声合唱組曲「心の四季」 | 作詩/吉野 弘 作曲/高田 三郎 |

1992年2月29日(土) 開演PM6:00

尼崎市総合文化センターアルカニックホール

<連絡先> 酒井美幸 (0726) 96-4564

各団の素顔 in 1991. 5. 3. (祝) 六連運動会

RITSUMEIKAN



毎年のごとく仮装には力が入っていたようだ。京都の山奥で鍛え、ためていた力を爆発させているかのようだ。しかし、イモ臭さの残る仮装には大阪に出て来れたと言う喜びさえ感じさせる。応援女子大の方もさぞかし困った事であろう。(と想像されます。) つけ加えて六連マネ I ノ本は日頃働いていないが、この日は極道関大に立ち向かうなど、珍しく働いていた。

KWANGAKU



KWANSEI GAKUINグリークラブはまことに素晴らしい。合唱マシーンと思われる方も多いたろうが、人間らしい一面を見せることも稀にある。基本的にみんな合唱好き(M宅を除く)であるため練習に向ける情熱は他団にマネのできないものがある。(M宅を除く)

合唱界に長い歴史と伝統を誇るKWANSEI GAKUINグリークラブの皆様、これからも益々無表情なマシーンになられることを他の五団一同願ってやみません。

HANDAI



阪大は写真のごとく、男ばかり100余名もいる偉大な(気持ち悪い)団です。六連運動会では六連マネのY野が細かく会計しているのと同じくコツコツ点数を重ね、ついに優勝してしまった。また同志社と同じく女好きの多いことでも有名で、彼女を見つけることをライフワークにしている者も多々いるとの噂である。(Y野も同じである。) また、何につけてもネーミングのセンスが悪く、ジョイントコンサート「松阪牛」はその最たるものであろう。クラブや女を見つける以外に喜びのない阪大男声に幸のあらんことをひたすら祈る他の5団であった。

DOSHISHA



右のように騎馬戦では氣勢が上がっていた。学生ヤクザ関大との一戦では場内興奮のつぼとさせたが、その起爆させたのが同志社である。一見やる気のないように見せかけておいて女子大の前だからだろうか、考えられぬパワーを出す。

風の噂ではN浦氏、M田を始め色ボケが多いと聞くが、どうなのであろうか真実は……。

「そりゃ、N浦さんだけっスヨ」

KANDAI



こいつらは本物のカブキ者だ。毎年毎年はき違えたような仮装をしては六連運動会の品位を落としている。各個人の写真を写して両親の元へ送ってやりたいものである。また今年は弱少甲南を傘下に加え(?) 甲南を使って同志社にケンカを売らせた張本人でもある。群れると強い烏合の衆、硬派を気取りながら彼女を所有している者も多数有るという、ヤクザになりきれない男達、そんな愉快な関大グリーよ、永遠なれ!

KONAN



右のように応援女子大の神戸女学院とは神戸三大大学の縁もあり一見仲良く見えるが、実際には人数の面の逆転現象もあり、甲南にはつらいペアだったと哀れむ周りの五団であった。応援合戦での自分を捨てた献身的な姿には思わず涙を誘われたことであろう。

騎馬戦においては関大という後ろ盾を得て、同志社に立ち向かった姿もかわいらしく、その後関大に刀をもらっているところを見ると甲南はどんな状況でも耐えられると思えました。

競技の結果はというと
大阪大学男声合唱団、見事優勝!

'91 第33回関西大学グリークラブ定期演奏会

■1991年12月8日(日) フェスティバルホール P.M6:00開場 P.M6:30開演

- ・ Negro Spirituals 指揮 澤 文雄
- ・ CHRISTMAS MOTET 指揮 Robert Vliegen
- ・ 現代アメリカの男声合唱曲 指揮 本山秀毅 ピアノ 垣内みどり・藤井由美 ティンパニ 村上博美
- ・ 男声合唱組曲「五つのラメント」 作曲 広瀬量平 指揮 澤 文雄

〈連絡先〉本台 豊 ☎06-337-6698

'91 立命館大学メンネルコール第45回定期演奏会

■1991年12月13日(金) ザ・シンフォニーホール P.M5:00開場 P.M6:00開演

- ・ 男声合唱のための組曲「ゆうべ、海を見た」 作詩 落合恵子 作曲 荻久保和明 指揮 高松 浩 ピアノ 垣内みどり
- ・ 男声合唱組曲「木下空太郎の詩から」 作詩 木下空太郎 作曲 多田武彦 指揮 高松 浩
- ・ Six Choruses for Male Voices Op. 53 作曲 GUSTAV HOLST 指揮 浦山弘三 ピアノ 藤澤篤子
- ・ ヴェルディ・オペラ合唱曲集 作曲 Giuseppe Verdi 指揮 浦山弘三 ピアノ 藤澤篤子

〈連絡先〉堤陽一郎 ☎075-461-4719
BOX ☎075-465-1111 [内線]2631

'91 第87回同志社グリークラブ定期演奏会

■1991年12月18日(水) ザ・シンフォニーホール P.M5:00開場 P.M6:00開演

- ・ Missa Mater Patris 作曲 Josquin des Prez 編曲 Elliot Forbes 指揮 永島健一
- ・ ヴェルディオペラ合唱曲集 作曲 G. Verdi 指揮 岡田 司 ピアノ 戎 洋子
- ・ 男声合唱組曲「青いメッセージ」 作詩 草野心平 作曲 高島みどり 指揮 永島健一 ピアノ 長田育忠
- ・ Liebeslieder 作詩 G. F. Daumer / J. W. Goethe 作曲 J. Brahms 編曲 福永陽一郎

指揮 畑中良輔 ピアノ 山本優子/長田育忠

〈連絡先〉(夜間) 前田勝視 ☎075-812-1046 BOX ☎075-251-3185呼

'91 第39回甲南大学グリークラブリサイタル

■1991年12月23日(祝) 神戸文化大ホール 開場P.M1:30 開演P.M2:00

- ・ Winter Chorale Series 第1集 指揮 阿部 純・西牧 潤・近田勇人
- ・ Winter Chorale Series 第2集 伴奏 岡安早苗・今岡淑子
- ・ Christmas Fantasy

〈連絡先〉山本誠一郎 ☎078-593-2581

'92 大阪大学男声合唱団第39回定期演奏会

■1992年1月18日(土) フェスティバルホール P.M5:30開場 P.M6:00開演

- ・ 男声合唱とピアノのための「縄文」 作詩 宗 左近 作曲 荻久保和明 指揮 根津昌彦 伴奏 伊吹元子
- ・ 男声合唱曲「島よ」 作詩 伊藤海彦 作曲 大 中 恩 編曲 福永陽一郎 指揮 浅井敬壹 伴奏 藤澤篤子
- ・ From the Western Screen Themes 演出・振付 薺 葉子 編曲 大塚晃一 指揮 井上信治 伴奏 A. SO
- ・ チャイコフスキー歌曲集 作曲 チャイコフスキー 編曲 福永陽一郎 指揮 根津昌彦 伴奏 藤澤篤子

〈連絡先〉倉永知明 ☎0720-59-6675

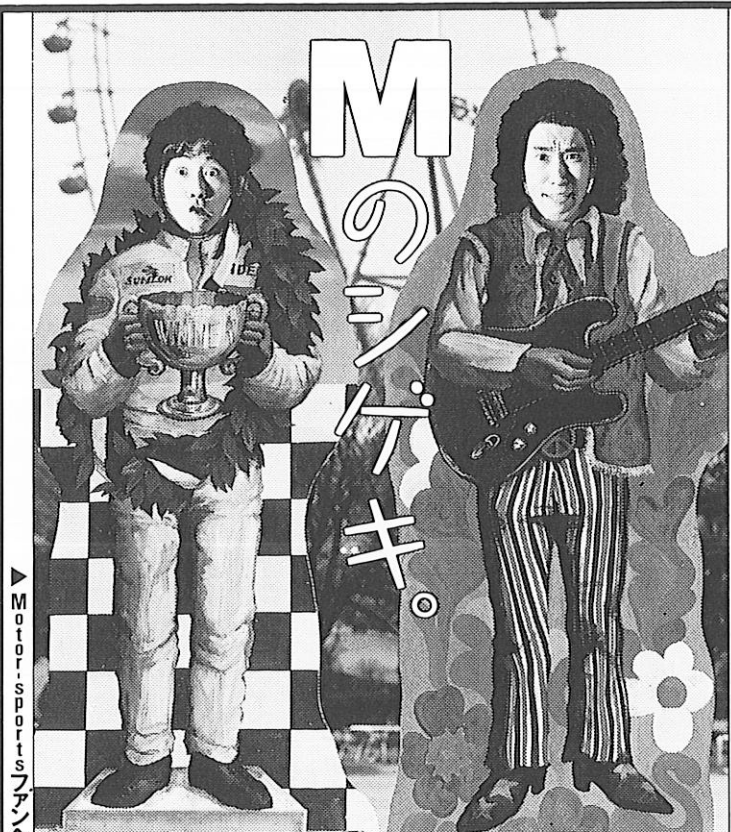
'92 第60回関西学院グリークラブリサイタル

■1992年1月25日(土) 神戸:神戸文化ホール大ホール P.M5:30開場 P.M6:00開演

■1992年1月26日(日) 大阪:フェスティバルホール P.M4:00開場 P.M4:30開演

- ・ MISSA (In honorem Sancti Josephi) 作曲 J. Van Nuffel 指揮 林雄一郎
- ・ OLD AMERICAN SONGS 編曲 A. Copland 指揮 北村協一 伴奏 浅井康子
- ・ R. アーン歌曲集 作曲 R. Hahn 編曲 北村協一 指揮 畑中良輔 伴奏 浅井康子
- ・ シューベルト男声合唱曲集 作曲 F. Schubert 指揮 土井賢志 伴奏 島田稔也
- ・ 男声合唱組曲「雪明りの路」 作詩 伊藤 整 作曲 多田武彦 指揮 北村協一

〈連絡先・電話予約〉関西学院グリークラブホール ☎0798-52-6471 デパート・ぴあ ☎06-363-9999

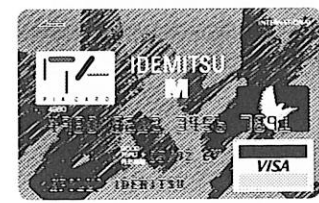


Motor Sports Fan

Musician

モータースポーツとミュージック、
2つのMを制覇する。出光Mカード新登場。

〈ふたつのMに強い出光Mカード。出光カードとPIAカードが手をつないで生まれた新しいシグネです。〉



**IDEMITSU
M・CARD**

入会金309円年会費3,090円(税込み)発行対象は18才以上の学生(大学・短大・専門学校生)及び社会人

便利増設計画
MOTION

都市・人間・環境のハーモニー

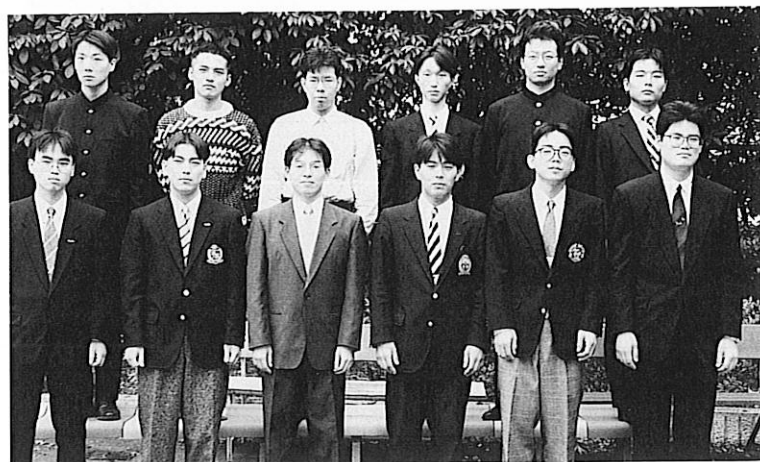


素敵をおこすエネルギー！

HASEKO

長谷工 コーポレーション

グループ企業
長谷工不動産 長谷工 コミュニティ
長谷工都市開発 長谷工 ライフネット
長谷工 アーベスト HASEKO (U.S.A.), Corporation



関西六大学合唱連盟 常任委員

立命館大学メンネルコール	井ノ本 享 (ステージ)
関西学院グリークラブ	三宅 直 (ステージ)
大阪大学男声合唱団	山野 弘喜 (会計)
同志社グリークラブ	前田 勝視 (幹事)
関西大学グリークラブ	菊地 和重 (印刷)
甲南大学グリークラブ	亘 正浩 (印刷)

第18回演奏会実行委員

立命館大学メンネルコール	片岡 伸浩
関西学院グリークラブ	山田 雄一
大阪大学男声合唱団	高多 学
同志社グリークラブ	打田 俊明
関西大学グリークラブ	山下 達哉
甲南大学グリークラブ	大澤 剛

＜編集後記＞

本日は第18回関西六大学合唱演奏会にお越し下さいまして誠にありがとうございました。

昨年、新しい六連マネージャーが集まり「こだわりのある演奏会」、「今までにとらわれない演奏会」を目指してきました。

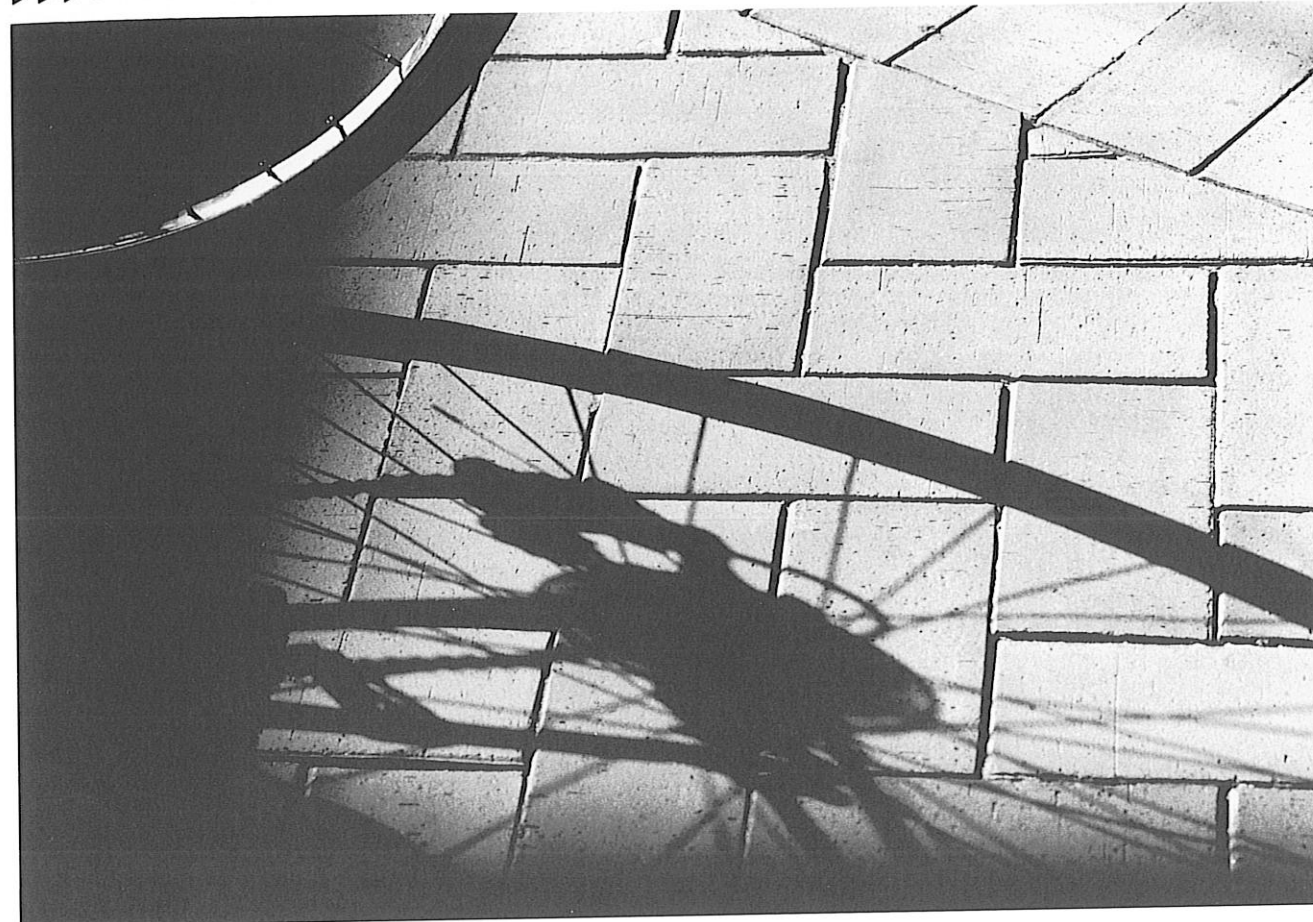
六団もの団のJoint演奏会ということ、その反面六団の技の競い合いの演奏会ということ、それともう一つの大きな問題にお客様の心に強く訴えかける演奏会でなければならないということで、私共の話し合いは混迷を深め、壁に幾度となくぶつかり、また私共の肩には非常なる重荷がのしかかったのです。六人とも志を途中で曲げず、励まし合い演奏会を創りあげてきました。

さて、今年のパンフレットですが、六団の演奏に対してスパイス的役割を果たすことを主眼に置いてまいりました。チラシ、チケット、パンフレットと真面目でストレートなものと思ってつくってまいりました。この六人の真面目な気持ちを受けとめていただければ幸いです。

最後になりましたが、本日の演奏会開催にあたり御尽力下さいました諸先生方、広告主の皆様方、お忙しい中、快く原稿をお寄せ下さいました皆様方、セントウェル印刷の中井様、チラシ、パンフレットの写真を快く提供して下さいました中村修様、並びに御来場下さいましたすべての皆様に心より御礼申し上げます。今後とも、関西六大学合唱連盟に御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

関西六大学合唱連盟

MURATA



待ってろよ。

初サラリーで、こいつを買う。
休日、ジーンズで街を走る。

そこには、学生時代にはなかった
新しい感動があります。

社会人の生活は、秩序正しく、日々こちよい緊張の連続です。それだけに週末の夜、休日の朝の開放感は、新鮮な感動に包まれているはず。ムラタはそんな1週間の快適なリズムで、行く気、やる気、考える気が湧き上がる会社です。たとえばムラタは情報機器、物流システム、繊維機械、工作機械の4事業部門が結束して3年後売上高3,000億円となり21世紀をめざします。また年内に新研究所を本社内に完成、福利厚生施設の充実、次世代への先行投資に力を入れています。同時に文化スポーツ・放送イベントなど支援活動〈メセナ〉にも積極的な企業としてその名を知られています。

- ヒューマントーク'91〈アルビントフラー博士講演会〉
- 全国都道府県対抗女子駅伝に協賛
- 全米ゴルフトーナメントとFM放送(関西/FM802毎週日曜日午前11時～12時・関東/J-WAVE 毎週木曜日午前6時～6時40分)にスポンサー
- ファクシミリのイメージキャラクターとして武 豊を起用

人にやさしいテクノロジー
村田機械株式会社

本社／〒612 京都市伏見区竹田向代町136
TEL.075-672-8111(ダイヤルイン番号案内)
東京支社／〒140 東京都品川区北品川4-7-35 御殿山森ビル21F
事業所／東京・大阪・名古屋・福岡など国内70カ所、海外29カ所
工場／愛知・群馬・石川・滋賀・大分

PLANNING PRINTING

セントウェル印刷株式会社

●〒541 大阪市中央区久太郎町1-6-2 TEL. 06-261-8640